

# JAPIA NEWS

2015  
5・6  
隔月刊  
(通巻707号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

**特 集**

## JAPIA 対談 ともに手を携えて

自動車の未来のために

自動車技術会

**加藤 光久** 会長  
(トヨタ自動車副社長)

日本自動車部品工業会

**玉村 和己** 会長  
(ニッパツ社長)

**特別寄稿**

**現地化再考**

**DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.3**

**足元で改善をみせる日本の貿易収支・経常収支**

**工業会業務レポート・スケジュール**

**支部活動レポート**

**中部支部**

**会員企業紹介**

**シグマ株式会社**

# AKEBONO

BRAKE EXPERTS

[www.akebono-brake.com](http://www.akebono-brake.com)



# イワタボルトの グローバルネットワーク



## 国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

## 海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ・カナダ

## 認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA,INC	2010年9月	FM549851	BSI
シンガポール	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA,INC	2010年3月	EMS549810	BSI
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTELTD	2009年7月	94-2-0318	PSB
タイ	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTELTD	2010年9月	2004-0265	PSB
中国(深圳)	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000907	BVQI
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TUV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TUV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TUV NORD

# 【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

http://www.iwatabolt.co.jp/

## インドへの進出、調達のお手伝いをします。

「V SOLUTION GLOBAL」は米国部品メーカーから派生したコンサルタント企業です。独自のインド進出で蓄積した経験とノウハウを、これからインドへの進出や調達を検討される日本のサプライヤーへサポートの提供を行い、お役に立ちたいと思います。

### ご提供できるお手伝いとは…

#### ①工場進出と販路拡大のお手伝い

- \* 用地選定、地域政府との交渉、人材採用
- \* ジョイントベンチャーのパートナー選定と交渉代行
- \* 当該部品の市場調査および販路開拓
- \* 材料サプライヤーに関する調査および情報提供

#### ②部品調達に関するお手伝い

- \* 適合する現地サプライヤー紹介
- \* コスト調査見積りと技術力評価
- \* 輸送手段選定とコスト調査

#### ③技術提供と品質保証に関するお手伝い

- \* カーメーカーの要求するスペック適合のための現地サプライヤーへの技術指導と評価
- \* CAD設計、電子部品設計、FEA、公差解析
- \* 製品の現地適合化のための設計提案

これらのお手伝いは弊社東京事務所を窓口、インド事務所との連携で進めさせていただきます。

### V- Solutions Globalの世界拠点：

弊社は米国本社他、下記の拠点をアジア地区に持ち、それぞれが下記の活動を行っています。

- \* 米国本社：ミシガン州グラッドヘーブ市(デトロイト市の西方400Km)：アジア進出を目論む北米サプライヤーの開拓。
- \* インド：デリー市及びハイドラバッド市：インド進出を意図するサプライヤーへの各種援助、各種部品調達援助およびそれらに伴う技術援助。
- \* 中国：上海市：エレクトロニクス製品調達を含む各種自動車部品調達。
- \* 韓国：ソウル市：金型調達、エレクトロニクス製品調達。
- \* 日本：東京：インド進出を目論むサプライヤーへの援助、各種部品調達援助。



お問合せは…

V SOLUTIONS GLOBAL 東京事務所 〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 719号室

TEL.03-6434-9346 FAX.03-6434-9347 e-mail:ralphy@vsolutionsglobal.com WEB:www.vsolutions.com



地球を舞台にしたスポーツは、  
自分勝手なルールではゴールできない。

デンソーは、この惑星を走るランナーとして  
環境技術を進化させる。

地球とクルマの調和のために。

ホ シ  
この惑星を技術で守りたい。

**DENSO**

# おかげさまで、70周年。

## 事業内容

### ▼自動車部品事業

排気系部品、ボデー骨格部品、  
内外装機能部品、足回り部品、  
燃料系部品

### ▼情報環境機器事業

### ▼外販設備、金型事業

**70**  
**FUTABA**  
70th Anniversary  
since 1945

**フタバ産業株式会社** 岡崎市橋目町字御茶屋1番地



**Koito**

## 安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。  
小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして  
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

**株式会社小糸製作所**  
〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号  
TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

# 自分の限界を 自分で決めるな。

トヨタ紡織は常に挑戦を続けてきた。

「快適」という数値化の困難な課題に対して、  
運転時の揺れや振動の再現、  
シートにかかる圧力の分布を計測することで、  
“乗り心地”を科学的に分析し、日々あくなき追究を重ねている。

わたしたちが恐れているのは、  
「できない」と思いこんで、これからの成長の芽を摘んでしまうこと。  
不可能と思った瞬間に、人は思考をやめてしまうものだ。  
「どうすればできる？」 そう問い直してみるだけで、  
目の前に立ちはだかっていた壁は、超えるべきハードルへと姿を変える。  
次の瞬間には、きっとあなた自身がそのハードルの超え方を模索し始めている。

トヨタ紡織にとっての次のハードルは、乗り物の種類という領域を超えること。  
どんな乗り物でも、トヨタ紡織の「快適な乗り心地」を体感してもらうには、何ができるか。

トヨタ紡織の「快適な乗り心地」に関する技術への挑戦に、限界はない。

トヨタ紡織が生み出す製品は、鉄道シート、住宅インテリアなど様々な領域に広がっています。



# 「企業は人」 材育成

環境が変化しても

長し続ける

人材を育てる

人材育成制度

037 社

目標設定研修

075 回

評価者能力研修

540 回

昇格者選抜評価

143 回

人事・人材開発支援の

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F  
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002  
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

## 主な実績企業

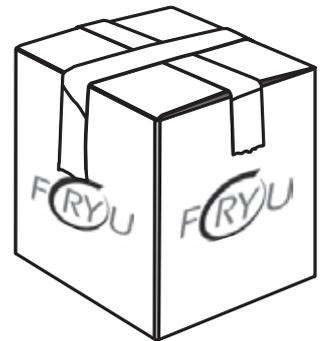
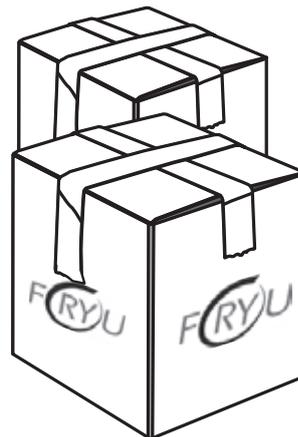
アイシン・エーアイ株式会社  
アイシン・エンジニアリング株式会社  
アイシン化工株式会社  
アイシン機工株式会社  
アイシン軽金属株式会社  
アイシン・コムクルーズ株式会社  
株式会社アイシン・コラボ  
アイシン精機株式会社  
アイシン辰栄株式会社  
アイシン高丘株式会社  
NTN 株式会社  
株式会社キャタラー  
埼玉工業株式会社  
株式会社ソミック石川  
津田工業株式会社  
株式会社デンソーエアシステムズ  
株式会社デンソーセールス  
デンソーテクノ株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
株式会社豊田自動織機  
浜名湖電装株式会社  
浜名部品工業株式会社  
豊生プレーキ工業株式会社  
マブチモーター株式会社 他(50音順)

日本から中国へ、中国から日本へ、  
航空貨物より速く、  
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、  
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス

日本    
中国間



同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

安心、確実、丁寧な  
ハンドキャリーで  
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp  
FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/



フォーユーエクスプレス 検索

# 巻頭言

Introduction



一般社団法人日本自動車部品工業会  
副会長・白井 政夫

[KYB株式会社 取締役社長]

円安に振れてから早2年近くが経過し、製造業に国内回帰の動きも出てきた。一方、自動車業界においては、一部同様の動きがあるものの、リーマン・ショックを経て、生産台数や為替に左右されにくい体質改善が進んでおり、新たな成長に向けた海外戦略も進行し、各社の海外進出計画に大きな変化はない。

先日、部工会の次年度に開催する講演会・研修会等のテーマ要望アンケートを目にする機会があった。結果は、次世代自動車の技術動向も然ることながら、グローバル人材の育成とグローバル化への対応が、圧倒的に多かった。このことは、弊社もそうであるが、会員企業各社が“グローバル化”に関心が高く、自社の経営課題として認識していることの表れと理解している。

では、最初のテーマであるグローバル人材とは、どういう人間を言うのか。それは、海外の人と対等に渡り合って自社の成長につなげることができ、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人間ではないだ

ろうか。

また、グローバルで活躍するとは、まず、現地の人達とコミュニケーションを図り、お互いを理解し、現地に溶け込めるかが重要であり、その上で、未知の世界や厳しい環境で、自ら考え、強いリーダー・シップを発揮して、自社のグローバルな成長に結びつけられる人ではないかと思われる。

具体的な人材発掘・育成実現に向けて、手立てを決めかねている企業は、少なくないと思われる。今後、着手しなければならないのは、一つには、発掘を日本人だけに絞るのではなく、グローバルに拡大して、人材の適材適所マップを描くことが重要だ。もう一つは、人材育成を研修だけで終わらせずに、必ず具体的な実践・評価・登用に結び付け、積極的に資質のある人間を抜擢し、現場で訓練し続けることが不可欠である。

次のテーマであるグローバル化への対応であるが、多くの企業がグローバルな経済環境の変化という波にさらされている。グ

ローバル市場における新興国企業との厳しい競争にさらされる中、これまで改革を行う必要性を感じていなかった日本企業でさえも、新たな視点から今後の進路を模索せざるを得なくなっている。過去の延長線上での勝利の方程式を捨て、顧客状況・競合状況・自社のポジションの観点から自社の立ち位置を理解し、戦い方の戦略や計画を立案することが重要だ。

成長性のある市場・魅力の高い市場に自社の身を置くことができるか、どのような差別化商品・価値を提供することができるか、どうやって競合よりも高いシェアをとることができるかを自社内で話し合い、共有する必要があると感じている。

今後も会員企業の皆様と手を携えながら、グローバルな環境変化に適応して持続的な成長を遂げていきたいと考えております。引き続き部工会活動にご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

特集

JAPIA 対談 3月19日 アルカディア市ヶ谷

# 共に手を携えて

## 自動車の未来のために

(公社)自動車技術会 **加藤光久** 会長 (トヨタ自動車副社長)

(一社)日本自動車部品工業会 **玉村和己** 会長 (ニッパツ社長)

グローバル化が加速するなか、自動車の世界では先進技術の開発や要素技術の取り込み、さらには先進思想を具現化した部品の開発・生産が急務となっている。さらに、国内では若年層の減少を背景にした人材確保も大きな課題。さまざまなことが変化するなかで自動車の未来のためにいかにすべきか、自動車技術会(以下、自技会)の加藤光久会長を招き、当工業会(以下、部工会)の玉村和己会長と熱い思いを交わした。

### 進化した自動車の歴史

**加藤** 現在の自動車は、ただ移動や物流の手段としてだけでなく、クルマに乗る楽しさなども考えながらつくられています。

**玉村** 私自身、ユーザーとして自動車と一緒に育ってきました。自動車への思いは人一倍強いかもしれません。初めてマイカーを得たあの喜びは、人生にとって大事なものを手に入れた忘れられない思い出です。

**加藤** 最近では、移動や物流、クルマに乗る楽しさに加え、地球環境にも配慮しなければならなくなっています。最近、新たな動力源のクルマとして燃料電池自動車が登場しました。燃料電池自動車がこれから普及していくためには、さらなる技術革新と同時にインフラの充実化が求められています。自動車の黎明期も同じような時期がありました。当時は、蒸気機関や電気、ガソリンエンジンなど群雄割拠の時代でした。

ガソリン車はクランク軸につながったクランク棒を人が手で回さなければならず、これが一苦勞でしたが、スターターの発明により克服しました。米国・T型フォードの大量生産という技術革新もあり、これが普及のきっかけとなりました。さらに、当時の米国の時代背景に、電気の発明から石油会社がガソリン精製事業に活路を求めたこと、そして高速道路網の発展というインフラの条件がそろったことが、現在のモータリゼーションにつながったと考えています。燃料電池車も同じようなことがいえるでしょう。クルマには交通事故や環境汚染といった負の部分がありますが、そういった負の部分とクルマの楽しさの両面を、技術革新によって克服し発展していくことがこれからも必要だと考えています。

**玉村** 自動車はめまぐるしく進化してきましたが、日本の部品メーカーはこれまで、完成車メーカーと技術のすりあわせによって、共同で自動車づくりに取り組んできま



した。自動車の未来に向けて部品メーカーとしていかに貢献するか、その思いは加藤会長と同じです。クルマづくりで基本的構成などの方向性を提示するのは完成車メーカーですが、機構開発や軽量化については、部品メーカーも取り組むことができる分野です。大きなテーマとなっている部品の共通化に対しても、部品メーカーの提案力を最大限に発揮し、役割を果たしていきたいと思っています。

### 共通化に対応する部品メーカー

**玉村** 部品メーカーの競争力は、コストと固有技術、品質に関するこだわりだと思います。常にユニークな製品を提案し、競争力を高めようとしています。しかし、いわゆる部品の共通化が進められており、単に受注数量を獲得しようとする価格競争一本槍に陥ることにならないかと懸念しています。

**加藤** 共通化というのは、同じ部品で全てを共通化することではなく互換性のある部品群でうまく差別化していくということです。インターフェースを揃えながら、中身の技術で競争できる環境はあります。元々、

欧米系メーカーでは行われていた方法です。最近設立されたエンジンの組合AICEでも、協調の領域と競争の領域を層別しながら、協調領域について各社が協力し合う関係ができています。こうした中で競争領域は、各社がいかに付加価値を高めていくかが重要です。ただし付加価値とは何かを考えた場合、最後はコストかというところ、必ずしもそうではないと思います。

**玉村** 日本の完成車メーカーの要求に応えられる部品メーカーと、応えられない部品メーカーとの二極化も懸念材料です。

**加藤** 完成車メーカーは、部品メーカーを会社の規模で選択しているのではなく、付加価値で選ぶケースが多いといえます。燃料電池車の開発時の例ですが、プロジェクトを始めてみると、初めてわかってくることもありました。燃料電池車の肝となる部品は、会社規模は小さくてもすごい技術を持っている会社をお願いすることがけっこうありました。会社の大小などではなく、「今日より明日を一緒につくりましょう」という夢の実現を共に進めていく関係を築けるかどうか重要です。

**玉村** 部品の共通化とともに、部品メー



カーはグローバル対応も迫られています。自動車は「地産地消」が進んできており、日本の部品メーカーは海外の部品メーカーの生産・販売動向をにらみながら、どの地域に出ていくのかを決断しなければならないという課題があります。一方で完成車の生産形態も「小さな設備」で「多様な地域へ」進出する形態へと変化しています。日本の部品メーカーは、日本の完成車メーカーの進出先についていくだけではビジネスにならない時代になってきており、海外の完成車メーカーにも部品を供給していく時代になりつつあります。日本品質の基本技術があれば海外メーカーにも通用すると信じています。

### 次代を担う人材育成が急務

玉村 部品メーカーでは各社とも、次世代に向けた人材の確保と育成が重要な課題となっています。自動車というのは完成車

メーカーと部品メーカーが一緒になって自動車をつくり上げることにより、製造業として成り立っているという認識が広がってくれば、その次に打つ手があるように思います。

加藤 自技会では、若い世代の人たちにもものづくりや自動車に興味をもってもらおうと取り組んでいる「キッズエンジニア」や「学生フォーミュラ」を毎年開催しています。それらの会場では、子供たちの目がキラキラしています。保護者の方々も一緒にワクワクしている様子がうかがえます。こうした体験が10年後に花開いて、「ものづくりの会社で働きたい」という思いにつながるものと信じて取り組んでいます。

玉村 「学生フォーミュラ」のDVDを拝見しましたが、学生たちがものづくりに情熱を燃やし、本格的な自動車をつくり上げているのに驚きました。

加藤 「学生フォーミュラ」などを一つのきっかけに、ものづくりの現場で「一緒につくりたい」「つくることが楽しい」という気持ちを持ち、ものづくりにのめりこんでいくような人材を採用したいと思っています。どんなに優秀な人材を採用しても即戦力にはなりません。創造力やチャレンジ精神のある人材が求められています。そういった若者を育てるための仕掛けは大人の責任だと思っています。「学生フォーミュラ」の世代はもちろん、その前の段階の子供たちに向けての取り組みも必要だと思います。

玉村 完成車メーカーは、自動車販売向けの広告宣伝などによって認知度があるのに対し、部品メーカーは「何をつくっているのか」とか「どんな働きをするものをつくっ

ているのか」から説明しなければなりません。BtoBのビジネスですから、世間一般への広告宣伝は積極的に行っていませんが、人材の確保などを目的に、企業としての認知度を上げようということで、そのための広告宣伝や企業スポーツに取り組む部品メーカーも増えています。

**加藤** 「キッズエンジニア」や「学生フォーミュラ」では、数多くの部品メーカーの方々にもお手伝いいただいています。会場では企業PRコーナーへの出展などで、会社の認知度アップに取り組んでいる会社もあるようです。

**玉村** 部工会自体の認知度が低いことも悩みの種です。そこで認知度向上に向けた取り組みを行っています。会員会社を中心とした部品メーカーに協力をお願いして、自動車の中で部品がどういう働きをしているかを紹介するDVDを作成しました。このDVDは自技会の第1回技術教育賞をいただきました。そのほか、学校の先生を対象にした工場見学会なども行っています。また、東京都港区にある自動車部品会館の中には、部工会が自動車やエンジンのカットモデルを常設展示しているほか、部品の軽量化の取り組みなどの企画展示も行っています。部品メーカー各社の展示もありますが、これとの連動性を一層高めるなどの見直しをしたいと思います。

**加藤** 自技会自体の認知度が低いことは部工会と同様です。各種のイベントでは、認知度向上のためにできるだけメディアを呼んで自技会主催をアピールするようにしていますが、なかなか認知度が向上しません。今後、自技会と部工会で、何か一緒にでき



ることを考えてみてはどうでしょうか。自技会と部工会が一緒になって盛り上げていくことは非常に意義深いことです。「人とくるまのテクノロジー展」にも多くの部品メーカーに出展いただいています。こうした場でも若い人たちへのアピールに役立ててもらえばありがたいですね。

**玉村** 学生の中で、文系の学生は理系の学生よりも製造業に興味がないと思います。技術者の確保のため理系の学生へのアピールは当然のこととして、文系の学生へのアピールも必要ではないでしょうか。部品メーカーの海外進出も増加していますが、事務系が必要とされる場面が目立ちます。技術系のうち、製品開発などは国内で行うことが多く、海外に出向くのは生産技術や品質保証のスタッフが中心となります。一方で海外では営業や経営企画、経理などさまざまな人材が求められており、事務系の人材が集まらないのも悩みです。

**加藤** 今は多様な人材を必要としていま



す。事務系はもちろん、技術系の人たちも、機械やハードだけわかっても、素材の知識、認識がないと、ものづくりはできない時代です。総合力が重要であり、いろいろなことにトライして、興味を持ってもらわないと戦えなくなっています。そうした理解を深めてもらうためにも、可能なことを日頃から継続して取り組んでいくことが大切だと思います。一つの例ですが、日本自動車工業会が行った、大学での自動車メーカーの社長講演は大きな反響を得たようです。部品メーカーでもできることがあるかもしれません。例えば、東京モーターショーの際に部品メーカーのトップが講演することなども考えられます。継続しやすいようなアイデアがあればよいと思います。

## 両団体の相互協力で相乗効果を

**加藤** 完成車メーカーと部品メーカーは一心同体です。クルマをつくる上で7~8割

は購入部品で構成されています。部工会や部品メーカーにも「学生フォーミュラ」のような場に積極的出てきていただいて、一緒に盛り上げるような活動していくと相乗効果が高まると思います。部工会には各自治体の産業振興機構も加盟しているのですが、そうしたところと自技会の各支部とが協力して、地域から大会を盛り上げる取り組みができるのではないかと思います。玉村 「学生フォーミュラ」などの場を借りて、部品メーカーの認知度を上げるチャンスは多くあると感じています。そのほか自技会の活動やイベントには、できる限り協力していきたいと思います。今後、自動車のさらなる技術革新、グローバル対応、人材の確保と育成など、取り組まなければならない課題は数多くありますが、これからも両団体が協力して、完成車メーカーと部品メーカーが手を携え、素晴らしいクルマづくりを目指していくことを願っています。今日はありがとうございました。

# 現地化再考

株式会社ローランド・ベルガー  
 日本共同代表 シニアパートナー 長島 聡  
 コンサルタント 劉 譔

## ■ 良い現地化とは

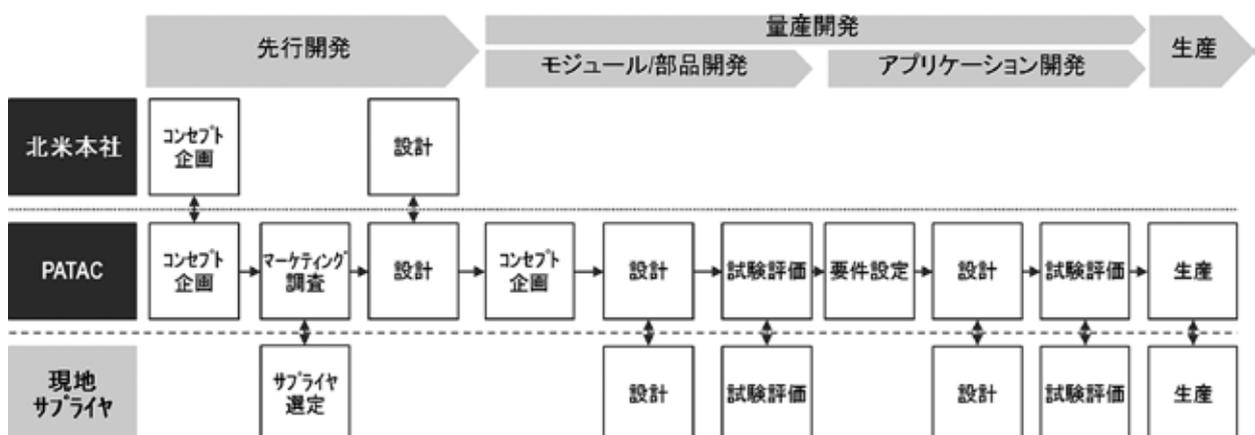
自動車における新興国市場の存在感はますます高まっています。その中で勝つためには、新興国固有の使い方やニーズを汲んだモデル開発、現地に根付いた調達・生産・販売機能の構築、いわゆる「現地化」が重要となっています。しかし、一口に現地化と言っても、どんな思想に基づいて、何を、どの程度現地化するかは様々であり、その見立てを間違えると、勝てる事業にすることはできません。では、「良い現地化」とはどのようなものなのでしょうか。

良い現地化の構成要素としては、①現地に適した品質の定義、②低コストの製品化、③組織を定着・継続進化させる仕組み、という3つに大別することができると思います。完成車メーカー各社の取り組みをベンチマークす

ると、それぞれ幾つかの手法があるようです。

①の現地に適した品質を定義するには、「現地ニーズに合わせて固有の品質を新たに定義する手法」と、「本国同様のグローバル品質を横展開する手法」があります。②の低コストでの製品化には、「現地に自由度を与えて現地拠点の現地人材が自ら造り込む手法」、「現地拠点の本社駐在員が現地人材と一緒に造り上げる手法」、そして「本国拠点が作った標準を現地人材が遵守する手法」が存在しています。③の組織を定着・継続進化させる仕組みには、「現地人材主導の早期実現を目指して当初から権限委譲する手法」、「本社駐在員が人手と時間を掛けながら伝承していく手法」、「長期的にも本社主体の前提の中で限定的な役割を担わせる手法」があるよう

図1 GMの本国と中国現地開発拠点の役割分担





す。

それでは、幾つかの完成車メーカーで、①～③の要素をどのように組み合わせて、どのような成果を生み出しているか、具体的な事例を見てみましょう。

### ■ 現地化の先進事例

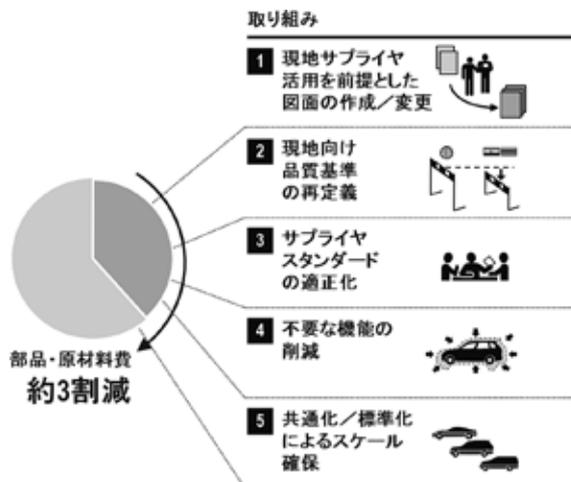
中国で高いシェアを持つGMにおいては、現地固有の品質の定義を、現地拠点PATACの現地人材が主導して作り上げるアプローチを取っています。過去に現地ニーズの把握が不十分でコスト競争力に劣る状況を経験し、本国が中途半端に口出しするくらいならいっそ現地へ完全に権限委譲した方がよいとの結論に至ったようです。モデル毎に開発するスタイルで多国展開する中で、本社の開発リソース逼迫という背景もあり、試行錯誤を覚悟の上で現地の自立的な能力拡充というやり方を選択したのです。ただ、それがグローバルブランド「GM」を毀損するリスクもあるため、現在PATACが品質定義から携わるのは低コストの国内専用エントリーモデルに限定しています。こうした制約はあるものの、既に現地人材は加速度的に成長し、現地生産、

現地調達も含めて高いレベルで低コストのものづくりを実現し、販売面でも大きな成果をあげています。

ホンダは、タイの新興国戦略車プリオにおいて、GMと同じように現地固有の品質定義まで踏み込みました。ただ、手法はGMとは異なり、現地と本国の協業を重視しました。現地開発拠点HRAPで、ホンダのグローバル品質基準をベースにしながらも、現地人材の考えや肌感覚もしっかりと取り込み、現地材料、設備を前提とした新たな品質の作りこみを行いました。その際、簡単な部品でも当初から適合開発に限らず企画から量産開発まで一気通貫で現地に機能を持つことで、車両開発プロセスの全体感やその中における各作業の意味合いまで理解してもらうことにも拘ったようです。低付加価値の業務のみをまかせるといった過去の取り組みとは明らかに異なる取り組みです。ゆっくりではあるものの、日本本社が持つ能力を遠くに見据え、日本人が現地人材を常に引き上げ、一步一步、力をつけていく、そんな道筋を描いているのではないでしょうか。

GM、ホンダとは異なり、グローバル品質

図2 ホンダのタイにおける取り組みとコストインパクト





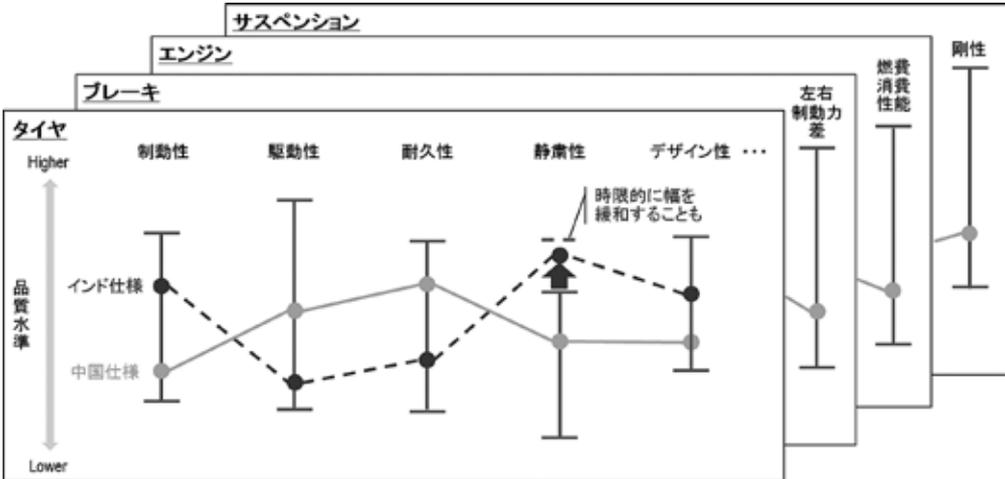
の考え方を中国でも適用しているのがVWです。ただし、VWとして担保すべき品質に一定の「幅」を本国で定義し、その範囲内で上海VWや一汽VWという現地拠点が品質を造り込んでいます。本国拠点の仕事はルール作りであり、良し悪しの多くはここで左右されるという仕組みです。モジュール戦略においても、モデルの部品全体の6割がモジュール化されており、モデル毎に個別開発する余地は4割しか残されていません。品質においても同じ思想を感じます。但し、本国も品質基準を「幅」として定義することで、現地適合の自由度も残しており、ローコストモジュールを中心に本国からの駐在員の助言・管理の下で、現地固有の状況や現地人材の感性、調査結果を盛り込めるようになっていきます。また、現地サプライヤの状況によっては、育成期間という意味合いで、期限付きで特定モデルの部品品質を緩和するケースもあるようです。VWは中国ではこうした取り組みにより大きな成果を収めていますが、インドなど更なる廉価モデルが求められる地域では、このアプローチではまだ十分な原価低減が実現できないという課題を抱えています。昨年、ウ

ルトラローコストモデルの計画を発表しましたが、ここで新興国固有の品質を本社主導で新たに定義するのではないかと考えています。

■ おわりに

このように現地化には様々なアプローチがあることをご理解頂けたと思います。今回紹介した3つのアプローチでは、どれが最も優れているのでしょうか？単純に優劣をつけることは難しいと思います。なぜなら、良い現地化を目指すに当たって、そのアプローチは各企業の文化や価値観も大きく影響するためです。VWのような本国主導のやり方は、現場に考える能力や習慣が身についた日本企業にはフィットしないでしょう。「①現地に適した必要十分な品質を定義し、②それを低コストで実現し、③且つそれが定着・継続進化する仕組みが機能する」ための選択肢を出した上で、自社の意思や得意技を改めて考え、それらを活かすという視点からアプローチを検討する、というやり方が有効ではないでしょうか。

図3 VWの品質の幅 (イメージ)



# 足元で改善をみせる 日本の貿易収支・経常収支

貿易財やサービスなどの海外取引の収支尻を示す日本の経常収支の黒字は、ここ数年縮小を続けている。これは、東日本大震災が発生した2011年に貿易収支が赤字に転じて以降、赤字幅が拡大を続け、2014年まで過去最大を更新し続けていることに因る。まず、鉱物性燃料の輸入が、原発停止により数量面で増加したほか価格上昇もあって大きく増加したことの影響が大きい。加えて、12年末からの円安の進行が輸入価格の上昇を通じ輸入金額の増加をもたらしたほか、輸出についても、日本企業が海外生産移転を進めたことや、アジア新興国が台頭し、情報関連機器をはじめとして日本の輸出競争力が低下したことなどから、円安下でも増加の動きが弱く、貿易収支悪化の歯止めとならなかった。その一方で、経常収支のもう一つの主たる構成要素である所得収支については、企業の海外移転や円安に伴い、対外投資によって得られる利子、配当金などの円建ての受取額が増加し黒字幅が拡大しており、これが日本の経常黒字を支えている。

国際収支については、経済発展に従い6段

階の変化を遂げるといふ「発展段階説（図表1参照）」が知られている。例えば、アジア新興国の多くは、かつての日本がそうであったように、輸出産業が発展し貿易黒字で稼ぐ「債務返済国」や「未成熟な債権国」に該当する。日本の場合は、貿易収支が赤字に転じる中で、所得収支の黒字により経常黒字を維持しており、「未成熟な債権国」から「成熟した債権国」へ移行した段階にある。経済が成熟していく中で、各国の「稼ぎ方」が変わっていくのは自然な流れとも言え、たとえ日本の貿易収支や経常収支が赤字になったとしても、対日投資など他の資金獲得手段でこれを十分にファイナンスできるようになれば、赤字自体が悪いこととはならない。

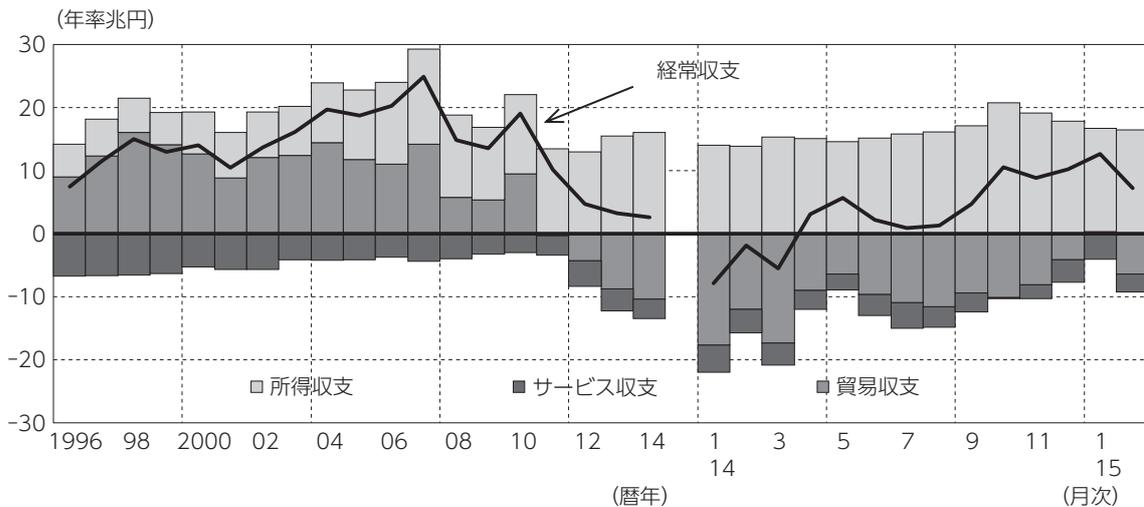
昨年の消費税率引き上げ前の駆け込み需要で輸入が膨らみ貿易赤字が拡大したことで、日本は一時的に経常赤字に陥ったが、足元の貿易赤字は縮小傾向にある（図表2）。この主因は、昨年秋頃から急速に進んだ原油安だ。昨年夏頃には1バレル＝100ドル程度あった原油価格は足元で50ドル程度と約半分の水準に

図表1 国際収支の発展段階説

	I	II	III	IV	V	VI
	未成熟な債務国	成熟した債務国	債務返済国	未成熟な債権国	成熟した債権国	債権取崩国
	国内産業未発達、資本を海外からの調達に依存	経済発展に伴い輸出産業が成長	輸出がさらに拡大、債務返済が進む	対外資産が積み上がり、そこから収益も発生	コスト増から自国製品の国際競争力が低下	対外債権を取崩し
貿易・サービス収支	-	+	++	+	-	--
所得収支	-	--	-	+	++	+
経常収支	--	-	+	++	+	-
対外純資産残高	-	--	-	+	++	+

備考) Crowther (1957)、財務省 (2012)

図表2 日本の経常収支の推移



備考) 日本銀行「国際収支統計」

下落している。日本の85兆円前後の輸入額に占める原油や石油製品の割合は2割程度と大きく、この原油安が続いた場合、輸入価格の抑制を通じて貿易収支は8兆円余り改善する。加えて、輸出面でもようやく改善がみられ始めた。1ドル=120円近辺の円安が定着することで日本の輸出企業の価格競争力が増していることに加え、米国の堅調な景気回復もあり、昨年秋頃から輸出数量が持ち直している。これにより、14年前半に年率10兆円を上回っていた貿易赤字は足元で1桁台前半に縮小している。さらに、円安の定着により日本企業の一部で国内生産を見直す動きがみられ始めており、ゆくゆくはこれが逆輸入の減少や輸出増につながる可能性にも期待できる。このようにリーマン・ショック後の経常収支悪化をもたらした複合的な要因の幾つかが払拭されてきており、日本が早期に経常赤字に転じ「債権取崩国」になる可能性は、やや弱まる形となった。

ただし、中長期的な視点に立てば、日本企業が成長する海外マーケットへの海外進出を止めるとは考えづらく、貿易赤字の定着は避

けられない。さらに、少子高齢化の進行によって貯蓄率が低下することで、国内全体の貯蓄と投資の差額に一致する経常収支が赤字に転じ、いずれは「債権取崩国」になるとみられる。とはいえ、「成熟した債権国」に達したばかりの現在、例えば円安で収益性の改善した国内立地を再評価し輸出増につなげるほか、米国に比べ見劣りが指摘される対外投資の収益性を改善させ所得収支の黒字をさらに広げるなど、経常収支の黒字を確保して対外債権を積み増す余地は十分に残されている。日本がどのタイミングで「債券取崩国」になるかは、日本企業が、グローバルな経済環境の変化を見極めながら収益性をどのように高めていくかにかかっている。

## 参考文献:

- Crowther (1957) 「Balance and Imbalances of Payments」  
 内閣府 (2005) 「日本は『国際収支の発展段階説』における『成熟した債権国』への道を歩むのか」今週の指標No.681  
<http://www5.cao.go.jp/keizai3/shihyo/2005/1205/681.html>  
 財務省財務総合政策研究所 (2012) 「貿易・国際収支の構造的変化と日本経済に関する研究会」資料  
 日本政策投資銀行 (2013) 「どうなる貿易赤字国ニッポン」週刊エコノミスト特集 (2013年2/12~4/30・5/7合併号)

# 工業会業務レポート

## 委員会活動

### 業務部

#### ●業務報告【2/16～4/15】

- 2月24日 経営調査部会 2014年度第3四半期の自動車部品工業の経営動向(案)について検討を行った。(部品会館)
- 3月3日 旧型補給部品検討会 27年度の活動内容について検討を行った。(部品会館)
- 3月5日 中小企業施策委員会 異業種メーカー施設見学会(関東支部と合同) (株)アマダ ソリューションセンターの施設見学会を行った。(株)アマダ ソリューションセンター)
- 3月10日 総務委員会 ・平成26年度第3四半期の自動車部品工業の経営動向の取りまとめについて検討を行った。 ・平成27年度の活動計画について検討を行った。(部品会館)
- 3月12日 補修部品用品委員会 物流施設見学会(関東支部補修部品用品研究会と合同) 楽天物流(株) 楽天フルフィルメントセンターの施設見学会を行った。(楽天物流(株) 楽天フルフィルメントセンター)
- 3月13日 中小企業施策委員会 ・次回、次々回の技術展示商談会の開催について、説明を行った。 ・27年度の活動予定(案)について検討を行った。(八芳園)

#### ●行事予定【5/16～7/15】

- 5月22日 JAPIA紛争鉅物調査説明会(横浜)(NISSANホール)
- 5月25日 経営調査部会(部品会館)
- 6月3日 JAPIA紛争鉅物説明会(名古屋)(トヨタ名古屋オフィス)
- 6月5日 総務委員会(部品会館)
- 6月10日 技術展示商談会(川崎重工業(株) 明石工場)

### 国際部

#### ●業務報告【2/16～4/15】

- 3月13日 国際委員会 1)最近の情勢説明 2)2014年度事業実績見込み及び2015年度事業計画本年度事業の進捗説明 3)本年度事業の進捗説明 4)追加事業説明(部品会館)
- 3月27日 知的財産権部会 1)不正競争防止法一部改正案の概要説明 2)海外政府機関招聘事業実施報告 3)特許出願動向調査について 4)WG進捗報告(部品会館)

#### ●行事予定【5/16～7/15】

- 5月19日 AEO制度に関するセミナー AEO制度の説明(制度の概要、認定事業者のベネフィット、認定事業者の要件 他)(名古屋栄ビルディング)
- 5月20日 EPAマトリックスセミナー(仮) EPAマトリックスに関する全会員向け概要説明会(仮)(部品会館)
- 5月22日 EPAマトリックスセミナー(仮) EPAマトリックスに関する全会員向け概要説明会(仮)(名古屋栄ビルディング)

### 関東支部

#### ●業務報告【2/16～4/15】

- 2月18日 講演会 「中小企業の多種同期プル生産ラインの

あり方について」 国立大学法人 熊本大学 大学院 客員教授 水野貞男様(部品会館)

- 2月20日 第4回関東支部企画部会(フジオーゼックス(株))
- 2月24日 講演会 ①「中小企業が海外事業を成功させるための方法」 コンサルビューション株式会社 代表取締役 中小企業診断士 高原彦二郎様 ②「INPIT海外知的財産プロデューサーによる支援について」 独立行政法人 工業所有権情報・研修館(INPIT) 海外知的財産プロデューサー 久永道夫様(経団連会館)
- 3月5日 施設見学会(本部と共催) 「最先端技術を用いた生産性向上のための設備デモ」(株)アマダ ソリューションセンター)
- 3月12日 施設見学会(本部と共催) 「多品種少量物流の効率化」(楽天物流(株) 楽天フルフィルメントセンター)
- 3月13日 第4回運営委員会 平成26年度事業報告(仮)・収支決算(仮) 平成27年度事業計画(案)・収支予算(案)(八芳園)
- 3月13日 講演会 「ものづくりの進化の潮流」 株式会社 ローランド・ベルガー 日本共同代表・シニアパートナー 長島聡様(八芳園)
- 3月17日 中小企業支援ものづくり部会 優良工場見学(しげる工業(株) 本社工場)
- 3月30日 自動車部品メーカー工場見学会 事業継続に基づいた環境配慮型工場の見学及びTPM活動の紹介(株)ミクニ 菊川事業所)

#### ●行事予定【5/16～7/15】

- 5月28日 第1回運営委員会(グランドプリンスホテル高輪)
- 5月28日 通常年次会(グランドプリンスホテル高輪)
- 6月4日 第1回関東支部企画部会(株)マーレフィルターステムズ)

### 中部支部

#### ●業務報告【2/16～4/15】

- 2月19日 講演会(中小企業部会) 「アジア自動車産業の現状と将来展望」～経営統合が進むメコン自動車産業の将来性分析～ フォーイン アジア調査部 部長 中田徹氏(名古屋栄ビル)
- 2月19～20日 ISO9001:2008 内部監査員2日間セミナー(刈谷市産業振興センター)
- 2月20日 ISO/TS16949:2009 規格解説セミナー(刈谷市産業振興センター)
- 2月26～27日 ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー(刈谷市産業振興センター)
- 3月4日 正副支部長打合せ会 2014年度業務報告及び決算見直し(名古屋市内)
- 3月12日 優良施設見学会(環境部会主催) トヨタ自動車(株)バイオ・緑化研究所(愛知県みよし市)
- 3月24～25日 ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー(刈谷市産業振興センター)
- 3月26～27日 ISO14001:2004 内部監査員2日間セミナー(刈谷市産業振興センター)
- 4月9日 支部業務監査 H26年度業務報告・H27年度事業概要 会計監査事前チェック 他(中部支部事務所)
- 4月10日 ISO/TS16949:2009 規格解説セミナー(刈谷市産業振興センター)

4月13～14日

支部会計監査 平成26年度支部決算会計監査（東郷製作所・住友理工 各社）

4月14～16日

中小企業大学校瀬戸校研修会 「新任管理者の職務と役割」（中小企業大学校瀬戸校）

#### ●行事予定 [5/16～7/15]

6月12日 実施計画検討会（中小企業部会主催） 中小企業部会の2015年度活動計画の検討と策定（名古屋栄ビル）

6月19日 実施計画検討会（環境部会主催） 環境部会の2015年度活動計画の検討と策定（名古屋栄ビル）

6月23～25日

中小企業大学校瀬戸校研修会 「コストダウンの考え方と原価のしくみ」（中小企業大学校瀬戸校）

7月1～3日

中小企業大学校瀬戸校研修会 「チームを率いる管理者の業務改善の進め方」（中小企業大学校瀬戸校）

7月7日 米国法務セミナー（名古屋栄ビル）

### 関西支部

#### ●業務報告 [2/16～4/15]

3月5日～6日

品質分科会 ISO/TS16949：2009内部監査員2日間セミナー（新小倉ビル）

3月11日 第4回正副支部長会・第3回運営委員会・情報交換会・展示会・講演会・懇親会 F1エンジン実機並びに分解部品展示会 「F1エンジンの材料技術」（株本田技術研究所 HRD Sakura MSD1 主任研究員 星雅己氏（ホテルグランヴィア岡山）

3月13日 生産分科会 第3回委員会・工場見学会（国産部品工業(株)）

3月19日～20日

品質分科会 ISO/TS16949：2009内部監査員2日間セミナー（エル・おおさか）

3月24日 総務分科会 第3回勉強会・工場見学会 「海外進出企業・現地責任者による第三回海外進出勉強会」（株エクセディ 常務執行役員 岡村尚吾氏（株エクセディ）

3月24日 経済産業省・自動車課長との名刺交換会／懇談会（株エクセディ／吉田山荘）

#### ●行事予定 [5/16～7/15]

5月19日 品質分科会 第1回講演会・懇親会 「チャイナハラメントー中国にむしられる日本企業」（リーガロイヤルホテル大阪）

5月26日 補修部品分科会 第1回見学会（オートボックス西日本ロジセンター）

6月12日 経営研修会 第1回勉強会

6月17日 生産分科会 第1回工場見学会

6月25日～26日

品質分科会 ISO/TS16949：2009内部監査員2日間セミナー（エル・おおさか）

7月7日 技術分科会 第2回講演会（ホテルグランヴィア岡山）

## 技術関係委員会等の開催状況 (2/16~4/15)

### 1. 総合技術委員会

### 2. 基準認証部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月18日	基準認証部会	自動車部品会館	1) インドWG 活動状況 2) 中国WG 活動状況 3) ASEAN-WG 活動状況 4) 各国情報 5) JASIC情報
2月22日 ~28日	基準認証部会 ASEANミッション	タイ、 インドネシア	1) DLT、TISI訪問 (バンコク) 2) AAF-TC3会議出席 (ジョグジャカルタ) 3) DGLT、PM MOI訪問 (ジャカルタ)
2月22日 ~3月1日	基準認証部会 インドミッション	インド	1) iCAT、ACMA訪問 (デリー) 2) ARAI、ACT訪問 (プネ) 3) GARC訪問 (チェンナイ) 4) TKI訪問・工場見学 (チェンナイ)
3月27日	基準認証部会 ASEAN WG	自動車部品会館	1) AAF-TC3会議及びタイ・インドネシア当局訪問報告 2) 今後の進め方について
4月15日	基準認証部会	東京 ビッグサイト	1) インドWG 活動状況 2) 中国WG 活動状況 3) ASEAN-WG 活動状況 4) 各国情報 5) JASIC情報

### 3. IT対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月20日	DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他 (困り事相談、情報交換等) 5) WG活動 6) PTCとのCreo/Windchillの実機検証会
2月27日	構造改革WG	ダッソーシステムズ (大崎)	1) CATIA/ENOVIA実機検証
3月4日	EDI部会	自動車部品会館	1) 各WG活動報告について 2) 上位委員会活動報告について
	IT対応委員会幹事会	自動車部品会館	1) EDI部会活動報告について 2) DE促進部会活動報告について 3) 幹事会活動報告について 4) 上位委員会活動報告について
3月11日	IT対応委員会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会の報告について 2) 平成26年度の幹事会の活動報告について 3) 平成26年度のDE促進部会の活動報告について 4) 平成26年度のEDI部会の活動報告について
3月18日	DE促進部会幹事会	ボッシュ (渋谷)	1) DE促進部会について
3月19日	DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他 (困り事相談、情報交換等) 5) WG活動 6) シーメンスとのNX/Teamcenterの実機検証会

#### 4. 環境対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月17日	啓発推進G	自動車部品会館	1) 第2回説明会の目的について 2) 各担当について
2月26日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 自工会・製品化学物質管理部会・報告 2) REACH-TFおよび欧州出張結果・報告 3) JAMAシート分科会・報告 4) J-IMDS-SC・報告 5) IMDS Data Use・報告
	省エネ工場見学会	JFEスチール (千葉)	1) 会社概況説明 2) 工場見学 3) 質疑応答
2月27日	工場用化学物質分科会 関連TF	自動車部品会館	1) 入口管理Gの活動報告 2) 法規制対応Gの活動報告 3) 啓発推進Gの活動報告 4) 3月の説明会について 5) 新規対応事項 6) 15年度計画(案)
3月10日	LCAデータWG	アイシン精機 (刈谷)	1) 調査対象製品のシステム境界の説明 2) LCI値の算出 3) システム境界設定について
3月12日	温暖化防止分科会	自動車部品会館	1) CO <sub>2</sub> 削減シナリオTF 2) 省エネ事例展開TF 3) 各種情報展開TF
3月12日	省エネ講演会および 事例説明会	自動車部品会館	1) 講演「ISO14001改正とその対応及びISO50001の活動状況」 2) JAPIA会員企業の省エネルギー対策事例について
3月13日	JAMAシート分科会 幹事会	自動車部品会館	1) JAMAシートの将来課題の論点整理 2) 各種渉外関係 情報共有・協議 3) JAMAシート6月改正対応
3月20日	LCA使用段階算出	自動車部品会館	1) 燃費ロス計算の考え方について 2) 削減貢献の考え方について
3月23日	東南アジア・インドの化学物質法規制および化学物質管理事例説明会 (東京)	日比谷 図書文化館	1) 講演「東南アジア・インドの化学物質法規制」 2) 法規制対応G 活動成果説明 3) 入口管理G活動成果説明
3月25日	東南アジア・インドの化学物質法規制および化学物質管理事例説明会 (名古屋)	名古屋市 工業研究所	同上
3月26日	化学物質規制対応分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規の動向 2) 規制物質の精査 3) 欧州情報 (ACEA TF, CLEPA) 4) 自工会情報 5) 部工会パネルディスカッション
3月27日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 自工会・製品化学物質管理部会 2) CATARC主催・国際フォーラム紹介 3) サプライヤアライアンス会議・事前報告 4) J-IMDS-SC・報告 4/8 5) ACEA・プロセスケミカルリストの動き
3月31日	環境対応委員会幹事会	刈谷市産業振興 センター	1) 各部会・分科会の今年度活動状況及び次年度活動計画の報告 2) 総合技術委員会及び理事会での報告 3) 事務局情報、その他
4月3日	LCAデータWG	アイシン精機 (刈谷)	1) 平成27年度計画について 2) ツール修正について 3) システム境界について
4月9日	JAMAシート分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各種渉外関係 情報共有 2) JAMAシート6月改正対応

日時	会議名	開催場所	概要
	JAMAシート分科会	自動車部品会館	1) 2015年度活動計画説明 2) IMDSリリース10.0計画紹介 3) JAMAシート2015年度改正計画説明 4) 2015年GADSL改正内容解説

## 5. 品目別部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月19日	シートベルト分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 中国シートベルトの新実施規則、実施細則に対する質問要望項目について 2) 2015年度CCCフォローアップ監査について
	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO, JIS, JASO対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会、JASIC関連について
2月20日	クッション性分科会	自動車部品会館	1) 2014年度活動の取り纏め 2) 2015年度体制について 3) 第18回シート技術研究発表会について
2月27日	オイルシール技術部会	自動車部品会館	1) JIS-ISO整合化作業について 2) ISO審議状況等 3) 次期部会長について
3月4日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) CREPA回答への対応について 2) GRSP報告 3) 中国CCC認証について
3月6日～7日	シート部会	アイシン九州 (熊本)	1) 第18回シート技術研究発表会開催計画 2) 中国CCC認証対応について 3) 次期正副部会長について
3月12日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO, JIS対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
3月13日 ～14日	濾器技術部会	京都	1) ISO, JIS対応について 2) 2015年度濾器技術部会の活動方針について 3) 自技会関連について
3月18日	内装材技術部会	自動車部品会館	1) 中国VOCに関するトヨタ紡織の取り組み 2) 各社の状況など情報交換
3月20日	ランプ部会	自動車部品会館	1) GTB-WG会議 (3/2@トリノ) の結果報告 2) UN規則の国内採択動向 3) 中国CCC新実施規則説明会 (1/14-15@JAPIA) の概要報告 4) 台湾VSCCの新COP工場監査手順 (2016年～) 5) 自動車検査法人Loビーム車検の義務化 (2015/9/1～) 6) 平成26年度ランプ部会活動実績報告 7) 平成27年度ランプ部会活動計画 (案)
3月27日	レストレイント部会 幹事会	芦森工業 (大阪)	1) 平成26年度部会・分科会活動報告 2) 部会・分科会役員 部会派遣委員等について 3) PR活動について 4) 国内外法規動向について
4月2日～3日	車輪技術部会拡大会議	岐阜	1) ISO, JIS, JASO対応について 2) JATMA YEAR BOOKについて 3) 各国部品認証制度対応について 4) 自技会、自工会関連等について
4月8日	シートベルト分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 審査部関連の検討 (クランプ10mm要件やEXSTOダミー) 2) CCAP回答への対応 3) 2015年度CCCフォローアップ監査について
4月10日	クッション性分科会	自動車部品会館	1) 平成27年度活動計画案 2) 第18回シート技術研究発表会について

●行事予定 [5/16～7/15]

月 日	会合名称など	概 要	場 所
5月18日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
//	車輪技術部会		自動車部品会館
5月19日	鉛規制対応分科会		自動車部品会館
5月20日	LCAデータWG		自動車部品会館
5月21日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
5月22日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	PT熱交換器分科会 (旧ラジエータ分科会)		自動車部品会館
5月25日	環境対応委員会		自動車部品会館
//	省エネ事例TF		自動車部品会館
5月26日	QRTV-WG		自動車部品会館
5月27日	EDI部会		自動車部品会館
//	IT対応委員会幹事会		自動車部品会館
5月28日	化学物質規制対応分科会		自動車部品会館
5月29日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
//	電線部会		自動車部品会館
//	オイルシール技術部会		自動車部品会館
6月2日	IT対応委員会		自動車部品会館
6月5日	GTB対応会議、ランプ部会		自動車部品会館
6月10日	基準認証部会		自動車部品会館
6月11日	H27年度第1回総合技術委員会		自動車部品会館
6月12日	濾器技術部会		自動車部品会館
6月12日 ～13日	シート部会合同会議		金沢大学
6月18日	JAMAシート分科会幹事会		自動車部品会館
//	JAMAシート分科会		自動車部品会館
6月19日	電線部会		自動車部品会館
6月25日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
6月26日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
//	車輪技術部会及びタイヤ・リム合同会議		自動車部品会館
7月2日	レストレイント部会春季合同会議		自動車部品会館
7月7日	製品環境部会		自動車部品会館

# 中部支部 環境部会主催 トヨタ自動車(株) バイオ・緑化研究所 視察報告

一般社団法人 日本自動車部品工業会

中部支部 環境部会委員 中谷 知之 (記)

(株式会社デンソー 安全環境推進部 担当課長)

## 1. 日時

2015年3月12日 (木) 13:30～15:30

## 2. 訪問先

トヨタ自動車(株) バイオ・緑化研究所  
(愛知県みよし市黒笹町丸根1099)

## 3. 面談者

トヨタ自動車(株)  
バイオ・緑化研究所 畦上所長様

## 4. 参加者

中部支部会員 25名 (15社)

## 5. 訪問のねらい

地球環境問題に正面から取り組み、ハイブリッド車で先行し燃料電池車でも先を行くトヨタ自動車は、クルマだけでなくバイオ・緑化分野でも話題になっている。バイオエタノール開発や農業IT管理「豊作計画」や駐車場緑化など、その中核になるバイオ・緑化研究所を訪問し研究開発の考え方と現状を視察する。

## 6. 研究所概要について

バイオ・緑化研究所は、ゴルフの三好C.C.に東・西・北を挟まれた所に位置する。3階建て研究棟の外観に派手さはなく正門から温室や圃場も見えて少し田舎に来た感じがする所である。

当研究所は1999年設立、敷地46,000㎡、従業員76名。「TOYOTA GREEN WAY ～緑の道を未

来をつなぐ道にする～」という考えのもと次の3つのビジョンを掲げ、様々な分野に取り組んでいる。

①バイオテクノロジー、緑化技術を通して地球環境に貢献 ②地球温暖化、森林減少などに対応した緑化事業展開 ③食糧問題、大気・水質汚染問題へ対応する資源循環型事業展開

今回はバイオエタノールの研究開発をはじめトヨタ自動車が進める「バイオ・緑化」の取り組みを見せて頂いた。

## 7. 視察内容

### (1) バイオエタノールの研究開発

クルマの脱石油、CO<sub>2</sub>削減に有効な再生可能燃料として期待されるのがバイオエタノール。現在の石油系燃料に混合して流通できエンジン対応も比較的容易ではあるが、現在商業化しているものは食糧から生産しており食糧不足の原因になりかねない。また生産性が低いという問題もある。

そこで食糧としない原料からバイオエタノールを効率よく作り出し事業化できるようにするのが研究の目的だ。

植物の食糧にならない繊維部分セルロースは、通常の菌では発酵させてエタノールにすることができない。そこで当研究所では遺伝子組換え手法で、セルロースを発酵させる酵母「トヨタ菌」を開発した。研究室には開発サンプル評価用の各種分析計やモニターがところ狭しと並び、研究者の表情も引き締まる。ここで開発されたトヨタ菌はシロアリの腸内細菌の遺伝子を組み込んだもので、世界トップレベルの高生産性を達成している。

原料となる植物は、「ネピアグラス」という牧草の一種で、トヨタバイオインドネシアで低コスト栽培法を確立しており、バイオエタノール生産の2018年事業化を目指して準備中とのことだ。



## (2) 栽培方法及び品種の開発

### ①イチゴ

イチゴ栽培の技術指導を（独）農研機構から受け、作業内容、温室データ（温湿、CO<sub>2</sub>、照明、培地pH、養液等）を解析し、これらの条件を制御することにより収穫時期、収量、品質などの最適化や適性の高い栽培方法の開発をしている。

例えばあるイチゴでは株元部分を20℃にすることにより成長が促進することを利用し、温室内温度とは別に株元温度を制御して栽培実証をしている。実際に栽培したイチゴを食べたがとてもおいしいイチゴだった。

### ②飼料米

90%を占める輸入配合飼料に対抗できる低価格、高収量、低コスト栽培が可能な飼料米の研究開発をしている。直播き、移植栽培（田植え式）の適性評価等の試験を実施し、玄米収量が従来比25%増の新品種を開発した。トヨタが「種子ライセンス+栽培ノウハウ」を提供するビジネス（稲作自体はしない）の事業化を今後狙っていくとのことだ。

なお、飼料米等の植物開発は開発検討開始から号口まで数年（7～9年）かかるため、社会ニーズ変化に臨機応変な対応が難しい。そこで生育期間の半減を目標に環境条件の維持・コントロールが可能な温室の開発も当研究所で同時に行っている。

## (3) 農業IT管理ツール「豊作計画」

最近地域と組んで話題になっているのが、JAグループ愛知などと連携したIT活用米作りの「豊作計画」だ。IT技術を使ったトヨタ式「カイゼン」農業としてメディアでも紹介されている。スマホ活用等で経営にも現場にも「欲しい時、欲しい形で情報提供」され、最適な作業やカイゼンをする事ができる。まさにトヨタ生産方式の農業版である。実際に先行導入した農家では春秋の稲作作業で10%効率向上が出ているとのことだ。

## (4) 緑化事業

持続可能な社会実現への貢献、都市部のヒートアイランド緩和を目指し、市場価値の高いものに特化した緑化の事業化を行っている。事業本体は地元の大島造

園土木(株)30%、トヨタ自動車(株)70%の出資で設立したトヨタルーフガーデン(株)が担い、地域と連携した事業を行っている。

屋上緑化では芝が伸び過ぎず芝刈り回数を低減できる品種「省管理型コウライ芝TM9」を開発し販売している。駐車場緑化では植物に直接車重がかからない構造や人の歩行を補助し、安全性を確保したタイプを開発しており、自動車メーカーらしいクルマや安全へのこだわりが感じられる。

また環境改善植物の分野では従来品種に比べ蒸散能力が高くヒートアイランド現象緩和に貢献できるチェリーセイジなどの品種開発を行っている。

## (5) 畜産バイオマス事業

菌技術を活用し畜産環境改善にも貢献している。家畜の糞の消臭・堆肥化資材を開発し、すでに商品化している。2011年に発売した豚糞堆肥化消臭剤「豚レスキュー」は悪臭防止法でも規制されている低級脂肪酸類の臭気を75～95%減にすることができる優れたものである。

## 8. 所感

バイオ・緑化という環境分野でのトヨタ自動車の素晴らしい取組みを視察することができ、地球環境に貢献していかなければならない企業として大いに参考になるものであった。研究者たちの研究成果が現実の事業化に繋がっており、熱意と自信を高めているように感じられた。現在事業化準備中の研究も多いとのこと、今後更なる発展が期待される。

最後に、ご多忙の中親切な対応と熱心な説明を頂いた、畦上所長様はじめ研究所の皆様には、この場を借りて感謝を申し上げます。



# 精密成形技術で市場をリード 海外生産を本格展開へ

グローバルニッチトップ 100 選受賞  
事業化する力を重視



下中利孝社長

## 会社プロフィール



**本 社** 〒737-0012 広島県呉市警固屋 9 丁目 2-28  
TEL.0823-28-0121 FAX.0823-28-4326  
URL.http://www.sigma-k.co.jp

**資 本 金** 45 百万円

**従 業 員** 200 人

**事業所拠点** 本社／広島県呉市警固屋 9 丁目 2-28、黒瀬工場／広島県東広島市黒瀬町津江 367-72、広島営業本部／広島市南区皆実町 3 丁目 4-37、東京営業本部／東京都新宿区西新宿 7-22-35、東海営業所／愛知県安城市三河安城本町 2-1-4、希格瑪精密機械（江蘇）有限公司／中国・江蘇省丹陽市、（現地法人のみ＝インド、タイ）

**代 表 者** 代表取締役 下中利孝

平清盛ゆかりの「音戸の瀬戸」にほど近い、広島県呉市警固屋に本社がある。「下中工作所」として1937年（昭和12年）に創業し、今年で78年め。広島でも老舗の自動車部品メーカーのひとつだ。

呉という土地柄か、下中利孝社長の祖父・利一氏が旧海軍工廠向けに部品製造を手がけたのが、同社の始まり。そのモノづくりの技術を請われ、戦後は主にマツダ向けとなる自動車部品製造が事業の柱になった。現在ではグループの総売上高が60億円に及び、昨年には同社のレーザー検査装置が経済産業省の「グローバルニッチトップ100選」を受賞するなど、今注目の企業だ。

### 1社偏重からの脱皮

とはいえ、かつての同社はどこにでもある部品会社だったという。下中社長は当時を振り返り、「何でもできるが、何もできない機械加工屋」と自嘲する。「営業力もなく、開発力もない。お客はマツダとその関連しかない、まさに一社偏重」の会社

だった。89年に33歳の若さで社長に就いたのに合わせて、そんな企業構造の改革を始めた。会社名を現在の「シグマ」に替え、文字通り無限大の可能性に挑む企業ポリシーを掲げた。

その第1弾の改革が“何でも屋”からの脱皮だった。「成形技術」に特化した。ステンレス成形など他社が嫌がる加工技術の強みを生かし、その深化をめざした。シングルミクロン（微粒子領域）の高精度技術を追求し、しかもその技術の複合化にも取り組んだ。これが、現在ではエアバッグやワイパーシステムの精密部品を中心に、約3千点に及ぶ付加価値の高い機能商品揃えにつながった。

### 四半世紀に及ぶ変革の連続

こうした改革は技術開発の分野だけにとどめず、営業力や人材育成でも果敢に挑んでいる。そこにこそ、同社の「開発した技術を事業化できる強み」の源泉と位置づけ、成長のシーズがあるとみているからだ。90年以来5年あるいは10年単位で改革



メタル部品



樹脂部品



レーザー傷検査装置

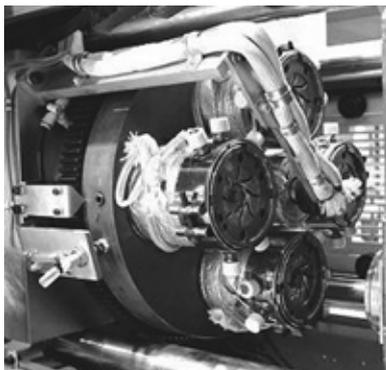
テーマを掲げてきたのも、全社員のベクトルを合わせることで最適の成長を狙う、同社のDNA基盤づくりとなっている。

現在、テーマ改革は第4フェーズに入っている。「人型未来企業」(2010年～20年)と掲げ、「多様な能力を持つ人が集い、生き生きと輝き成長する会社」(下中社長)をめざしている。このため、人材開発の専門部署を設け、外国人の登用を含め人的戦力の強化を急いでいる。

一方、同社はアジアを軸にした海外事業に力を注ぎ始めている。08年3月から生産を開始した中国工場(丹陽市)では近く新工場を設け増産に乗り出すほか、タイで今年9月から、インドでは来年5月から現地生産を始める予定だ。さらに、インドネシアにも生産拠点を整える方針だ。

## 中国とインドを中核に アジア戦略に着手

100%出資の現地法人として展開する中国とインドをコアに、合弁のタイとインドネシア工場を組み合わせ、日本をマザー工場とした生産ネットワークを構築しようという考えだ。大幅な軽量化、コスト軽減を可能にした高効率な成形機の独自開発など、



アドバンスド成形機

同社ならではの先進技術を次代のグローバル生産体制で生かす戦略だ。

もちろん、その技術力に磨きをかけることも忘れてはいない。山積みの小物部品をランダムにピックアップできる3D視覚システムのほか、検査の簡素化と自動化に役立つ樹脂部品外観検査ビジョンシステムなども独自開発した。さらに、こうした技術力を生かしてアセキューティー分野への進出も新たな注目事業となりつつある。

「自立して生きていける会社」。確かな技術力と事業化力を研ぎ澄まし、世界市場に打って出ようとするシグマの新たな挑戦が始まっている。



中国工場外観



中国工場 工場内

# 市場を豊かに

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

日本でトヨタが下請け企業に対して半年ごとに実施していた値下げ要求を2014年下期に続いて2015年上期も見送ると発表しました。それとタイミングを合わせるように米国では世界最大のスーパーマーケット、ウォールマートが来年までに従業員の賃金を最低1時間10ドルにまで引き上げるといふ発表をしました。米国内従業員140万人のうち約50万人が対象となります。前者はいわゆるトリクルダウン効果で下請け企業労働者の賃金上昇を狙い、結果的に景気の底上げを目指すもので、後者は米国内の失業率低下に伴って労働力不足に直面している雇用者たちがようやく待遇改善によって優れた従業員を雇用、維持しようというものです。目的や背景は異なっても、労働者の収入を増やすことはとても良いことです。元来国の経済力は活発な国内消費市場に支えられるべきもので、日本も米国も長い間その逆のことばかり続けてきたのですから、ここらでその悪癖を正してもらいたいものです。米国ではすでにウォールマート傘下のサムズクラブもそのライバル、コストコも、さらに大手小売店チェーンも相次いで賃上げを発表しています。昨年来、西海岸の海運業者と港湾労働者の労働組合との労使交渉は困難を極めました。また南部の各石油精製所でも労働者はストライキを行っています。これらは皆、好景気を背景に待遇改善を求める労働者の強気の姿勢を反映するものです。今秋景気回復後初となるUAWとデトロイト3の労使協約交渉はさてどうな

るでしょうか。

ウォールマートの決断は他の大企業にも影響を与え、結果的に米国の自動車市場も必ずその恩恵に預かることでしょう。米国で競争する自動車メーカー各社も、トヨタに倣ってサプライチェーン全体の労働者に対する利益還元を目指すべきでしょう。もういい加減に「下請けいじめ」は止めるときです。ビッグ3が力を失った原因のひとつはそこにあるのですから。

そして日本の自動車メーカーも、軽自動車しか売れずどんどん縮小していく国内市場をなんとかしなければなりません。消費者の収入が増えることも不可欠な条件ですし、さらに大切なのはみんなが欲しくなるようなクルマを造り出すことです。若者のクルマ離れなどという言葉を使い訳にはなりません。

そんなことを考えていたら、アップルが電気自動車（EV）の開発を始めたというニュースが飛び込んできました。プロジェクト・タイタンというのだそうです。EV製造のテスラからたくさんのエンジニアを引き抜いたとか、EVバッテリー製造のA123から大量のエンジニアを引き抜いて訴えられたとか、感心しない話題もついています。それでもあのスティーブ・ジョブズが完全に信頼して全てのデザインを任せたジョナサン・アイブが生み出すiCarなら、ひょっとしたら日本の若者たちのハートも掴むことができるのではないだろうかとひそかに期待しています。 〈完〉



## 会員トピックス

# バスケットボール部 アイシンシーホース応援団活動を通じたコミュニケーションアップ

アイシン精機株式会社 試作工場 工場管理グループ 加藤 栄一さん

NBL（ナショナルバスケットボールリーグ）1部リーグで戦うアイシン精機のバスケットボールチームの「アイシンシーホース」。試作工場の若手で構成する応援団は、『共に頂点へ』を合言葉にリーグ戦全試合に参加して選手へ熱いエールを送っています。会場ではファンと一体となり試合を盛り上げています。

### ● シーズンを通しての試合のスケジュールは？

5月まで開催している2014-2015シーズン（2014年10月～2015年5月）は、全54試合（土日を基本に開催）に及ぶ。応援団では全試合に参加するとともに、毎年1月に開催される天皇杯（今年度は惜しくも3回戦敗戦）で熱い応援を送っています。応援団長の戸根義信（試作工場・製造G）をはじめとする若手社員23人がメンバーです。さらに、応援団サポートとして応援団企画員4人と、篠田俊哉工場長をはじめ管理職16人が交代でアウェイ試合の同行や、ホームゲームでの観客席盛り上げを支援しています。

### ● 会場での応援団のパフォーマンスも楽しみのひとつですね

ホームゲームでは平均10人、アウェイゲームには6人程度の団員が参加し、試合前に観客と一緒にオフense、ディフェンスの応援を練習。試合中はBGMに合わせハリセンを叩いてのオフense応援や『レッツゴーアイシン』の掛け声、またシーホース君（着ぐるみ）によるパフォーマンス等で会場を盛り上げています。アウェイでは、太鼓と団員の大きな声で応援も。選手の応援旗やチーム旗等の取付け、応援ハリセンの配布、応援席案内、試合後の客席ゴミ拾い等も団員で協力して行いマナーの良い活動を心がけています。80年代にオールトヨタのスポーツ競技大会が開催されていた頃、当工場がバスケット部の応援担当工場に割当てられた事がきっかけで、90年代の日本リーグ2部時代から応援団を結成しました。チームが1部へと昇格し日本を代表する常勝軍団へとレベルアップすると共に、応援団活動もさらに力が入っています。

### ● 今後の活動について

試合後の就業日は共通の話題として従業員間のコミュニケーションに役立つだけでなく、社員外のア

イシンファンとの交流もあります。試合後の一杯会で団員の結束力の向上にも。若手メンバーの強調性やマナー向上など応援団活動を通じた人材育成に効果を発揮しています。今後は今シーズンのリーグ王座奪還を目指し5月まで活動に全力を注ぎます。来シーズン以降もリーグの動向を見ながら盛り上げていきたいですね。



応援団

## 行政・団体

### 2月.....

#### ■経産省と国交省、自動運転を研究後押し 産学連携へ検討会 (27日)

経済産業省、国土交通省は「自動走行ビジネス検討会」を立ち上げる。

### 3月.....

#### ■独立行政法人「自動車技術総合機構」来年4月発足 (2日)

独立行政法人「自動車技術総合機構」が来年4月1日に発足する。

#### ■経産省と国交省、自動運転 国際標準も視野に (2日)

経済産業省と国土交通省は、「自動走行ビジネス検討会」の初会合を開き、技術開発の方向性を決める議論を始めた。

#### ■国交省、リコール制度改正 狙いは改修期間短縮 (3日)

国土交通省がリコール(回収・無償修理)制度の対象を自動車部品メーカーにも広げる。

#### ■政府、近未来技術実証特区応募 自動走行関連22件 (5日)

政府が公募していた「近未来技術実証特区」に70件の応募があった。

#### ■車両法8年ぶり大幅改正、13日閣議決定 リコール制度見直しなど (7日)

図柄ナンバーの新設やリコール(回収・無償修理)制度に基づく調査対象を部品メーカーにも広げることなどを盛り込んだ道路運送車両法の改正案が固まった。

#### ■自工会、理系進学応援活動を強化 (9日)

日本自動車工業会(自工会)は来年度、学生の理系への進学や職業意識の醸成を促進する活動を強化する。

#### ■中小企業庁、初の全国創業スクール 受賞者決定 (11日)

経済産業省中小企業庁は、「第1回全国創業スクール選手権」の受賞者を発表した。

#### ■特許庁、知財価値を見える化、中小企業が融資受けやすく(12日)

経済産業省特許庁は、中小企業への支援策を拡充する。

#### ■リコール迅速化へ、車両方など改正案を閣議決定 (14日)

政府は、道路運送車両法と自動車検査独立行政法人法の改正案を閣議決定した。

#### ■国交省、タカタ製エアバック改修率 2月末で70% (16日)

国土交通省は、タカタ製エアバッグのリコール(回収・無償修理)進捗状況を公表した。

#### ■自動車春闘、過去最高ベア相次ぐ (19日)

賃金・一時金に関する2015年春の労使交渉(春闘)の一斉回答日となった18日、日産自動車が賃金改善分として自動車メーカー最高額の5000円としたのをはじめ、トヨタ自動車が4000円、ホンダが3400円など過去最高水準の回答が相次いだ。

#### ■WP29、自動車運転の検討事項固まる 「専門家会議」来月初会合 (19日)

自動車の基準調和を話し合う国連の自動車基準調和世界フォー

ラム(WP29)がこのほどスイスで開かれ、自動運転分野の検討事項などが固まった。

#### ■日本とEU産業政策対話、新市場の創出へFCVで規制協力(20日)

日本とEUの産業政策対話がこのほど開かれ、規制協力に関する共同文書がまとまった。燃料電池車(FCV)やロボットなど12分野で互いに規制をすり合わせ、新たな市場の創出や円滑な輸出入を目指す。

#### ■2015自動車春闘 部品大手 昨年上回るベア (20日)

部品メーカーの2015年春闘は、自動車メーカーによる相場の引き上げにより、デンソーなどトヨタ系の大手が、昨年実績を上回る賃金改善(ベアアップ=ベアに相当)を回答した。

#### ■国交省、電柱衝突や燃料漏れ防止対策 新たに技術基準 (24日)

国土交通省は、電柱などへの衝突を想定した「ポール側面衝突」対策や追突時の燃料漏れ防止対策などに関する技術基準を新たに導入する。

#### ■政府、中堅企業支援を強化 (26日)

政府は、中堅企業に向けた支援策を強化する。従業員(常勤雇用者)数で数百人規模の企業に焦点を当て、各省庁が持つ制度を「中堅・中小企業支援パッケージ」として今春から提供する。

#### ■政府、継承円滑化法案を閣議決定 (28日)

政府は、事業の円滑な引き継ぎを促す承継円滑化法案を閣議決定した。

#### ■自工会、来たる「リケ女」自動車メーカーの魅力紹介 (30日)

日本自動車工業会は、東京都内で女子学生向けのイベント「ドライブ・フォー・ザ・フューチャー」を開催した。

### 4月.....

#### ■国交省、13年度のリコール分析 設計起因が6割 (1日)

国土交通省は、2013年度中に届け出があったリコール(回収・無償修理)の分析結果を公表した。

#### ■政府、次回COPの交渉方針 部門別目標を積み上げ (4日)

政府は、温暖化ガスの削減を話し合う「国連気候変動枠組条約締約国会議」(COP)の次回会合に向け、産業や運輸、家庭など部門ごとの削減可能性を積み上げて議論する「セクター別アプローチ」の働きかけを強める交渉方針を明らかにした。

#### ■経産省、改めて政策づくり デジタル技術や自動運転、AT 新たな潮流にどう対応 (6日)

経済産業省が新たな製造産業政策づくりに乗り出した。産業構造審議会(経産相の諮問機関)の関係会議を約半年ぶりに開き、安倍政権の成長戦略や来年度の予算要求をにらんで有識者らと議論を始めた。

#### ■経産省、事業再編で新指標 (10日)

経済産業省は、事業再編や企業どうしの協力関係を促す新たな政策指標「グローバルベンチマーク」を今夏までに策定する。

#### ■14年度リコール2割増956万台 タカタ関連が押し上げ (11日)

国土交通省が公表した2014年度のリコール(回収・無償修理)届

**NOK**  
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

**NOK株式会社**  
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

出件数は335件(前年度比17.2%増)、対象台数は955万7888台(同19.8%増)だった。

- 経産省、ベースロード電源6割確保 有識者会議から異論(13日)**  
2030年時点の電源構成(エネルギーミックス)を決める議論において、経済産業省が専門の有識者会議で示した「ベースロード電源を6割確保する」案に異論が出ている。
- 国交省、タカタ製エアバッグ改修率 3月末で73%(16日)**  
国土交通省は、タカタ製エアバッグのリコール(回収・無償修理)進捗状況を公表した。
- 経産省、日本版「インダストリー4.0」 年内に協議会発足(18日)**  
経済産業省は、通信技術やビッグデータによる国内産業の刷新を後押しする。
- 経産省、素形材産業で女性活用に向け指針(22日)**  
鋳造や金属プレスなどの素形材産業で、女性の活躍を促す取り組み指針を経済産業省がまとめた。

## 国内

2月.....

- 積水化学、軽量、高剛性で熱成形容易な新素材(27日)**  
積水化学工業は、同社の高機能プラスチックカンパニーでグラフェンライクカーボンを用いた新材料「高剛性軽量樹脂シート」を開発した。
- トヨタ、仕入先総会を開催(28日)**  
トヨタ自動車は、名古屋国際会議場で2015年トヨタグローバル仕入先総会を開催した。

3月.....

- タカタ、インフレーター生産倍増 リコール作業の迅速化支援(4日)**  
タカタは、9月までにエアバッグのリコール交換用ガス発生装置(インフレーター)の生産量を現状の2倍となる月産90万個まで拡大する。
- トヨタ、TNGA推進へ部品メーカーとの連携強化(6日)**  
トヨタ自動車の役員人事とともに、系列部品メーカー各社のトップ人事が固まった。
- パナソニックと独インフィニオン、次世代半導体の共同開発に合意(11日)**  
パナソニックと独インフィニオンテクノロジーズは、窒化ガリウム(GaN)を素子とするパワーデバイスを開発することで合意した。
- 曙ブレーキ「足回り」テーマに3社合同で就職説明会(13日)**  
曙ブレーキ工業は、KYB、横浜ゴムと合同で就職説明会を今月開催する。
- 日本プラスト、ハンドル材へウレタンリサイクル技術の活用提案(17日)**  
日本プラストは、帯広畜産大学と共同開発したウレタンリサイクル技術の量産用での利用を、2015年度にも自動車メーカーに提案する。
- トヨタ系中堅部品メーカー、燃費改善の“ソリューションサプライヤー”へ(18日)**  
トヨタ系中堅サプライヤーの間で、燃費改善の“ソリューションサプライヤー”として技術開発を強化する動きが活発化している。
- ジェイテクトが世界初、制御2系統の電動パワステ(25日)**  
ジェイテクトは、トルクセンサーの異常などでハンドルが切りにくくなる不具合を回避する世界初の電動パワステアリング(EPS)を開発し、量産を開始した。
- 東洋ゴム、性能偽装の免震ゴムが新たに発覚(26日)**  
東洋ゴム工業は、性能を偽装した建築用免震ゴムが新たに存在する疑いがあると発表した。
- トヨタ、TNGA対象を拡大 20年に世界販売の5割(27日)**  
トヨタ自動車は、クルマづくりの構造改革「トヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー(TNGA)」の対象モデルを2020年頃までに世界販売全体の約5割へと拡大する方針を明らかにした。
- いすゞ社長に片山氏「事業拡大の芽育てる」 細井氏は会長に(28日)**  
いすゞ自動車は、片山正則副社長(60)が社長に昇格し、細井

## クローズアップ

### シャープ、ディスプレイと入力機能を融合(3月12日)



外周にタッチセンサーを配したディスプレイ

シャープは、液晶ディスプレイと入力機能の融合を進める。ディスプレイの外周にタッチセンサーを配したり、画面上にNFC(近距離無線通信)の読み取り機能を持たせたりすることで、直感的な操作を可能にする。ディスプレイの付加価値を高めることで競合との差別化を図り、採用拡大につなげる。

行社長(65)が会長に就くトップ人事を発表した。

- ホンダ、S660に新開発エアバッグ(31日)**  
ホンダは、新型軽自動車「S660」の助手席用に乗員保護に必要な圧力を長時間維持する新開発のタカタ製エアバッグを採用。
- 4月.....
- トヨタ、仕入先と初の幹部交流人事 仕事の進め方や風土改革に期待(6日)**  
トヨタ自動車が4月1日付で実施した役員人事で、アイシン精機出身の水鳥寿之氏が専務役員、デンソー出身の奥地弘章氏が常務役員に就任した。
  - アルバックと独ボッシュ、先端MEMSの共同開発に合意(11日)**  
アルバックは、独ロバート・ボッシュと次世代MEMS(微小電気機械システム)用のデバイスを共同開発することで基本合意した。
  - 芦森工業、輸入部品を国内製に 為替基準作成、柔軟な生産体制(14日)**  
芦森工業は、海外で生産して輸入している部品の国内生産化に乗り出す。
  - ファナックと古河電工、高出力レーザーで合弁 薄肉鋼板加工に(15日)**  
ファナックと古河電気工業は、高出力レーザー・ダイオード・モジュール(LDM)の開発・製造、販売を目的とした新会社を設立すると発表した。
  - 熱マネジメント、内燃機関の改善積み重ね フタバ産業、排熱でオイル温める(16日)**  
自動車メーカーによる燃費改善の取り組みは、世界各国の燃費規制に対応するために加速している。
  - BASF、排水の環境負荷低減目標を6年前倒しで達成(18日)**  
独BASFは、2011年に策定した工場排水に含まれる環境負荷物質の低減目標を6年前倒しで達成した。
  - トヨタ系部品サプライヤー、事業再編に警戒感(20日)**  
トヨタ自動車系の部品メーカーが系列内の事業再編への警戒感を強めている。
  - ホンダ、タカタ製エアバッグ回収調査を全国に拡大(20日)**  
ホンダは、タカタ製エアバッグインフレーター的全数回収調査地域を全国に拡大した。昨年12月22日、多湿地域である沖縄から優先的にスタート。
  - トヨタ本格進出に沸く先行サプライヤー メキシコで受注競争に熱(20日)**  
トヨタ自動車がメキシコへの本格進出を決めたことで、現地に進出済みの日系部品メーカーの間でトヨタからの受注に向けた競争が熱を帯びそうだ。
  - 部品メーカー、生産設備の内製化進む 効率化とコスト減(23日)**  
部品メーカーの間で、加工や組み立てなどの生産設備を内製する動きが広がっている。
  - 東洋ゴム、免震積層ゴム性能偽装で新たに99棟(23日)**  
東洋ゴム工業は、性能偽装などの問題がある免震積層ゴムが99

# 日刊自ダイジェスト

棟で使用されていることが新たに発覚したと発表。

## ■日立オートモティブ、セミアクティブサスペンションの新制御技術を開発 (24日)

日立オートモティブシステムズはセミアクティブサスペンションの新たな電子制御技術を開発した。

## 海外

2月.....

3月.....

## ■ヴァレオ、世界初 電動過給器を実用化 来年度から欧州で供給 (2日)

仏ヴァレオは、2015年末から電動過給器の生産を開始する。

## ■ニッパツ、カンボジアにシートカバー縫製会社 (5日)

ニッパツは、タイ子会社がカンボジアにシートカバーの縫製会社を設立すると発表した。タイでのシート生産の拡大を見込み

## ■GM、優秀サプライヤー賞にアルパインなど日系6社 (7日)

ゼネラル・モーターズ (GM) は、年間サプライヤー賞「2014年GM サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」の式典を米デトロイトで開き「ベスト・グローバル・オートモーティブ・サプライヤー」78社を選出した。

## ■デンソー、韓国での談合 課徴金は免除 (28日)

デンソーは、韓国の公正取引委員会が独占禁止法の規定により課徴金賦課を決定したことに対し、すでに違反の疑いがある行為を取りやめていたことに加え、減免申請を行ってそれが認められたことから、是正措置と課徴金賦課のいずれも免除されたと発表。

## ■タカタのエアバック不具合リコール、カナダで集団訴訟 (30日)

タカタは、米国会社のTKホールディングスとハイランドインダストリーズが、カナダ・オンタリオ州上位裁判所でエアバッグの不具合リコールに関連した3件の集団訴訟を提起された。

4月.....

## ■芦森工業、メキシコの現地調達率60%超へ (1日)

芦森工業は、2017年までにメキシコ工場の現地調達率を現状の26%から60%超まで引き上げる。

## ■ザ・ダウ・ケミカル・カンパニー、塩素事業を米オリンと統合、業界最大手に (9日)

ザ・ダウ・ケミカル・カンパニー (本社=米ミシガン州) は、同社の塩素事業を分離し、米オリン社 (本社=ミズーリ州) と合併すると発表した。

## ■ホンダ、部品調達 中国地場系を開拓 (16日)

ホンダは、中国での部品の現地調達でローカルサプライヤーから

の調達を拡大する。

## 市場

2月.....

3月.....

## ■14年のゴム製品国内出荷額、自動車タイヤ3.4%増 (10日)

日本ゴム工業会は、2014年のゴム製品の国内出荷金額を集計した。

## ■英LMCオートモーティブ、世界市場成長鈍化の見通し (18日)

英調査会社のLMCオートモーティブ社によると、小型商用車を含む2月のグローバル新車販売は前年同月比0.6%増の647万8476台となり、2013年半ば以来の低い成長率となった。

## ■自工会、15年度の国内四輪車需要見通し (20日)

日本自動車工業会 (自工会) は、2015年度 (15年4月~16年3月) の国内四輪車需要見通しを14年度見込み比5.4%減の499万1900台と、4年ぶりの500万台割れに設定したと発表した。

4月.....

## ■14年度新車販売、500万台超も前年割れ 需要回復鈍く (2日)

2014年度の新車販売台数 (登録車と軽自動車の合計) は、前年比6.9%減の529万7110台で、3年連続の500万台超えとなった。

## ■ダイハツ、軽自動車シェア年度で逆転首位 (2日)

2014年度 (14年4月~15年3月) の軽自動車新車シェア争いで、ダイハツ工業が9年連続でトップとなった。

## ■14年度の車名別新車販売ランキング アクア 3年連続総合1位 (7日)

2014年度の車名別新車販売台数ランキング (軽自動車含む) は、トヨタ「アクア」が3年連続のトップとなった。

## ■日本の乗用メーカー各社の14年度 米国販売、引き続き好調 (13日)

日本の乗用車メーカーによる2014年度 (14年4月~15年3月) の日本、米国、中国における販売台数がまとまった。

## ■14年度の工作機械受注額31%増 史上2番目の高水準 (17日)

日本工作機械工業会が発表した2014年度の工作機械受注額 (確報) は、前年度比31.0%増の1兆5785億円と2年連続で増加するとともに、水準としては07年度に次ぐ史上2番目の高さだった。

## ■乗用車8社14年度、世界生産5社が最高 国内生産5年ぶり減 (24日)

乗用車メーカー8社は、3月および2014年度の生産・輸出実績を発表した。

## 記者の目

## 事業環境が異なる大手と中小。変化対応が必要なのは変わらない

自動車業界の2015年の春闘は、賃金改善 (ベア) が中心の交渉となった。円高是正や株価上昇などアベノミクスの恩恵を受けた自動車産業は、景気回復に影響を及ぼすベアに対する社会的な期待も大きく、自動車メーカーに続き大手や中堅の部品メーカーも2年連続となるベアに踏み切った。一方で大手や中堅と状況が異なるのが中小製造業だ。組合員数が100人未満の組合が6割を占めるものづくり産業労働組合では、大手との格差是正を目指して9千円の要求方針を掲げて春闘に臨んだ。しかし現実には厳しく、妥結ペースは遅く交渉が難航した。

その背景には、大手や中堅とは異なる事業環境があ

る。中堅以上は自動車需要が旺盛な海外で利益を稼いでいる。一方で企業規模が小さく海外へ進出できない中小は、業績を国内の生産動向に依存する。国内需要の減退と地産地消が進む中、将来的な成長は描きにくい。賃上げどころか、企業の存続すら危機感を抱いているのが現状だ。

アベノミクスの思惑とは異なり、中小への波及が難しい製造業。中でもグローバル競争が激しい自動車は典型ともいえる。ただ、これまでのビジネスが通用しないというのは大手でも変わらない。常に変化に対応できれば、勝機は必ず訪れる。(A)



このダイジェストは2月27日~4月24日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連記事を抜粋。詳しくは日刊自動車電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

# 指標・統計

## ■自動車生産・販売・輸出 (自工会調) .....

### 1. 四輪車の生産実績

(単位：台)

	2014. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計6	対前年 同期比(%)	2015. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	649,237	97.2	8,277,066	101.1	656,943	89.0	656,943	89.0
普通車	361,407	99.5	4,657,764	100.9	366,725	90.2	366,725	90.2
小型四輪車	129,678	87.5	1,750,892	92.7	137,974	86.6	137,974	86.6
軽四輪車	158,152	100.9	1,868,410	111.0	152,244	88.4	152,244	88.4
トラック	107,170	98.6	1,357,434	103.8	110,220	99.9	110,220	99.9
バス	10,538	105.3	139,834	105.4	10,593	84.4	10,593	84.4
合計	<b>766,945</b>	<b>97.5</b>	<b>9,774,334</b>	<b>101.5</b>	<b>777,756</b>	<b>90.3</b>	<b>777,756</b>	<b>90.3</b>

### 2. 四輪車の国内販売実績

(単位：台)

	2014. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	360,346	100.3	4,699,590	103.0	344,040	79.3	344,040	79.3
普通車	101,626	86.2	1,437,589	102.7	96,305	70.8	96,305	70.8
小型四輪車	96,782	91.9	1,422,883	96.6	111,330	86.9	111,330	86.9
軽四輪車	161,938	119.0	1,839,118	108.8	136,405	80.6	136,405	80.6
トラック	70,743	112.0	851,312	106.2	56,590	91.4	56,590	91.4
バス	829	102.9	11,983	106.5	736	126.7	736	126.7
合計	<b>431,918</b>	<b>102.1</b>	<b>5,562,885</b>	<b>103.5</b>	<b>401,366</b>	<b>80.9</b>	<b>401,366</b>	<b>80.9</b>

### 3. 四輪車の輸出実績

(単位：台)

	2014. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	325,422	99.9	3,835,595	94.3	296,932	103.9	296,932	103.9
普通車	310,280	104.3	3,593,941	100.8	281,344	107.1	281,344	107.1
小型四輪車	14,965	52.9	239,198	47.9	15,152	65.9	15,152	65.9
軽四輪車	177	108.6	2,456	173.1	436	237.0	436	237.0
トラック	43,395	103.0	488,486	103.5	35,327	117.8	35,327	117.8
バス	12,296	108.8	141,556	103.4	9,613	88.3	9,613	88.3
合計	<b>381,113</b>	<b>100.5</b>	<b>4,465,637</b>	<b>95.5</b>	<b>341,872</b>	<b>104.6</b>	<b>341,872</b>	<b>104.6</b>

## ■自動車部品の生産・輸出・輸入 .....

### 1. 自動車部品の生産 (経済産業省「生産動態統計」)

(単位：百万円)

		2014. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
総括	自動車部品 41品目	507,291	99.3	6,361,162	101.6	515,154	95.8	515,154	95.8
	関連自動車部品 9品目	104,445	97.3	1,278,922	100.3	104,643	97.5	104,643	97.5
	内燃機関電装品 5品目	34,521	103.5	409,616	105.3	32,534	97.2	32,534	97.2
	二輪車部品 4品目	6,072	109.3	68,524	108.4	6,114	96.5	6,114	96.5
	合計	<b>652,329</b>	<b>99.3</b>	<b>8,118,224</b>	<b>101.6</b>	<b>658,445</b>	<b>96.1</b>	<b>658,445</b>	<b>96.1</b>

# 指標・統計

		2014. 12月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 1月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,337	101.6	41,302	100.9	3,330	96.4	3,330	96.4
	2	ピストンリング	3,391	103.2	41,940	104.1	3,355	103.3	3,355	103.3
	3	シリンダーライナ	1,643	90.7	21,900	102.1	1,725	95.3	1,725	95.3
	4	吸気弁及び排気弁	3,365	95.8	41,586	95.4	3,259	90.5	3,259	90.5
	5	ガスケット	2,377	104.4	29,626	96.9	2,383	94.2	2,383	94.2
	6	燃料ポンプ	1,881	96.6	22,866	88.8	1,911	93.0	1,911	93.0
	7	空気清浄器	2,095	85.8	24,816	93.8	2,150	112.1	2,150	112.1
	8	油清浄器	1,774	25.9	22,524	80.7	1,774	96.3	1,774	96.3
	9	油ポンプ	2,271	106.0	28,527	103.6	2,377	95.2	2,377	95.2
	10	水ポンプ	2,437	140.0	28,479	100.1	2,375	101.9	2,375	101.9
	11	ラジエータ	18,671	1044.2	216,422	109.7	16,787	104.3	16,787	104.3
	12	クラッチ装置	5,281	225.5	63,377	109.0	4,860	98.2	4,860	98.2
	13	自動変速装置	168,677	7677.6	2,115,145	109.4	173,132	97.7	173,132	97.7
	14	ユニバーサルジョイント	3,403	18.7	42,984	77.3	3,352	92.9	3,352	92.9
	15	プロペラシャフト	4,339	81.4	55,858	95.3	4,389	88.7	4,389	88.7
	16	車輪	8,181	4.8	97,592	37.0	7,955	92.1	7,955	92.1
	17	かじ取りハンドル	3,847	107.4	48,808	91.5	3,918	85.7	3,918	85.7
	18	ショックアブソーバ	10,677	233.9	132,472	117.0	10,397	93.1	10,397	93.1
	19	ブレーキ倍力装置	2,268	29.0	34,372	86.0	2,361	84.3	2,361	84.3
	20	ブレーキシリンダ	3,476	82.9	72,869	97.9	3,540	54.2	3,540	54.2
	21	ブレーキパイプ	2,814	28.1	32,430	85.7	2,738	103.6	2,738	103.6
	22	ブレーキシュー	2,660	93.6	34,029	99.6	2,639	92.2	2,639	92.2
	23	燃料タンク	6,808	105.0	86,786	101.6	6,832	91.2	6,832	91.2
	24	排気管及び消音器	25,672	1002.8	324,616	113.1	26,476	96.6	26,476	96.6
	25	窓わく	2,473	86.7	32,494	103.0	2,630	93.9	2,630	93.9
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	7,228	107.2	94,677	91.9	7,361	87.5	7,361	87.5
	27	窓ガラス開閉装置	4,841	19.3	56,421	75.0	4,507	98.5	4,507	98.5
	28	シート	63,694	2688.6	792,322	110.9	66,384	95.6	66,384	95.6
	29	スイッチ類	13,490	176.2	164,734	103.0	13,848	95.0	13,848	95.0
	30	計器類	11,023	240.3	132,716	104.2	10,027	90.3	10,027	90.3
	31	窓ふき	7,023	11.5	87,552	62.6	6,788	90.7	6,788	90.7
	32	警音器	1,323	9.6	16,250	57.1	1,327	98.7	1,327	98.7
	33	暖房装置	7,807	69.3	102,029	90.7	8,347	86.1	8,347	86.1
	34	電子式ブレーキ制御装置	15,604	212.5	182,479	104.7	14,848	94.2	14,848	94.2
	35	シートベルト	6,602	511.8	90,204	106.1	7,312	89.0	7,312	89.0
	36	エアバッグモジュール	6,750	94.9	85,721	111.5	6,843	96.3	6,843	96.3
	37	気化器・燃料噴射装置	18,184	107.1	243,959	97.5	20,599	100.7	20,599	100.7
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	34,774	455.9	430,455	110.8	34,982	98.8	34,982	98.8
	39	軸受メタル	3,805	50.7	48,737	144.6	3,853	86.6	3,853	86.6
	40	ブッシュ	2,671	13.5	32,949	75.0	2,728	124.1	2,728	124.1
	41	オイルシール	8,654	25.1	106,137	95.1	8,755	101.3	8,755	101.3
		<b>合計</b>	<b>507,291</b>	<b>99.3</b>	<b>6,361,162</b>	<b>101.6</b>	<b>515,154</b>	<b>95.8</b>	<b>515,154</b>	<b>95.8</b>
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	8,966	100.9	102,170	104.8	8,362	99.3	8,362	99.3
	2	かさね板ばね	2,332	112.2	28,284	105.8	2,314	99.8	2,314	99.8
	3	つるまきばね	1,737	90.8	23,633	96.4	1,754	84.4	1,754	84.4
	4	線ばね	4,747	100.0	57,924	101.3	4,478	97.8	4,478	97.8
	5	カークーラー	23,001	95.7	297,557	98.9	24,292	107.9	24,292	107.9
	6	自動車用器具	29,784	102.2	359,239	105.7	30,828	104.6	30,828	104.6
	7	自動車用電球	954	107.3	11,552	116.4	912	96.2	912	96.2
	8	カーオーディオ	3,367	102.5	42,402	111.1	2,895	92.2	2,895	92.2
	9	カーナビゲーションシステム	29,557	91.4	356,161	93.8	28,808	85.1	28,808	85.1
			<b>合計</b>	<b>104,445</b>	<b>97.3</b>	<b>1,278,922</b>	<b>100.3</b>	<b>104,643</b>	<b>97.5</b>	<b>104,643</b>

			2014. 12月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 1月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1	ダイナモ	7,161	100.6	85,188	101.2	6,631	90.2	6,631	90.2
	2	スタータ	8,119	104.1	97,324	109.0	7,821	97.9	7,821	97.9
	3	ディストリビュータ	669	114.8	7,828	89.3	598	96.1	598	96.1
	4	イグニッションコイル	6,685	90.8	83,653	92.9	6,452	89.4	6,452	89.4
	5	プラグ	11,887	113.5	135,623	116.3	11,032	107.0	11,032	107.0
		合計	34,521	103.5	409,616	105.3	32,534	97.2	32,534	97.2
二輪自動車 部品 (4品目)	1	気化器	872	104.1	9,451	102.6	873	100.1	873	100.1
	2	ショックアブソーバ	2,156	94.2	24,845	98.0	2,214	100.6	2,214	100.6
	3	計器類	1,067	84.9	13,830	90.5	1,123	81.8	1,123	81.8
	4	ブレーキ装置	1,977	168.7	20,398	152.6	1,904	100.7	1,904	100.7
		合計	6,072	109.3	68,524	108.4	6,114	96.5	6,114	96.5

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

①平成21年1月より「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。

②平成23年1月より「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。

③平成26年1月より品目の掲載順序を一部変更。

④平成26年1月より「エアバッグモジュール」の定義を変更。

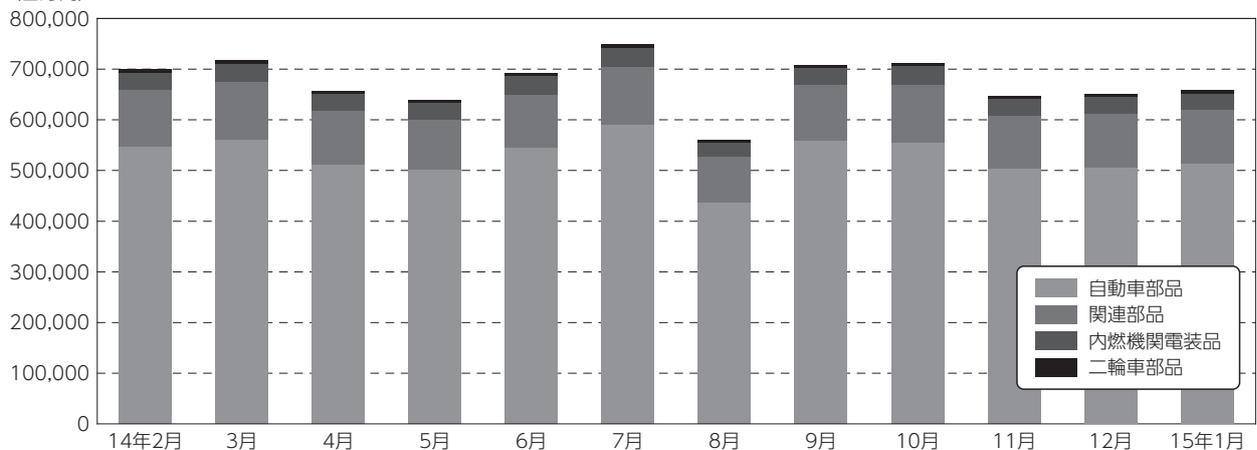
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。

接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

⑤平成26年1月より「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

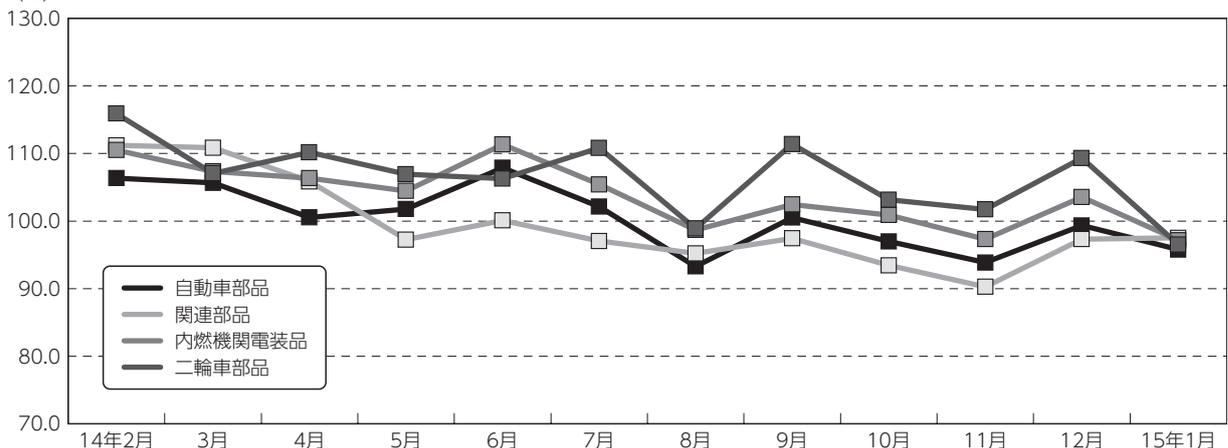
## ■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



## ■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



## 目次

- 07 | **巻頭言**  
副会長・白井 政夫
- 09 | **特集 JAPIA 対談**  
**ともに手を携えて 自動車の未来のために**  
自動車技術会 加藤 光久会長 (トヨタ自動車副社長)  
日本自動車部品工業会 玉村 和己会長 (ニッパツ社長)
- 14 | **特別寄稿**  
**現地化再考**  
株式会社ローランド・ベルガー 長島 聡 / 劉 譔
- 17 | **DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.3**  
**足元で改善をみせる日本の貿易収支・経常収支**  
日本政策投資銀行
- 19 | **工業会業務レポート・スケジュール**
- 25 | **支部活動レポート**  
中部支部視察報告
- 27 | **会員企業紹介**  
**シグマ株式会社**
- 29 | **北米事務所だより Vol.112**
- 30 | **会員トピックス**  
アイシン精機株式会社 加藤 栄一さん
- 31 | **日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト**
- 34 | **指標・統計**

平成27年5月15日発行  
(隔月1回15日発行)

### ■発行所

一般社団法人  
日本自動車部品工業会  
〒108-0074  
東京都港区高輪1-16-15  
電話 03-3445-4212  
FAX 03-3447-5372

### ■編集

日刊自動車新聞社  
〒105-0012  
東京都港区芝大門1-10-11  
芝大門センタービル3階  
電話 03-5777-2351(代表)

### ■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

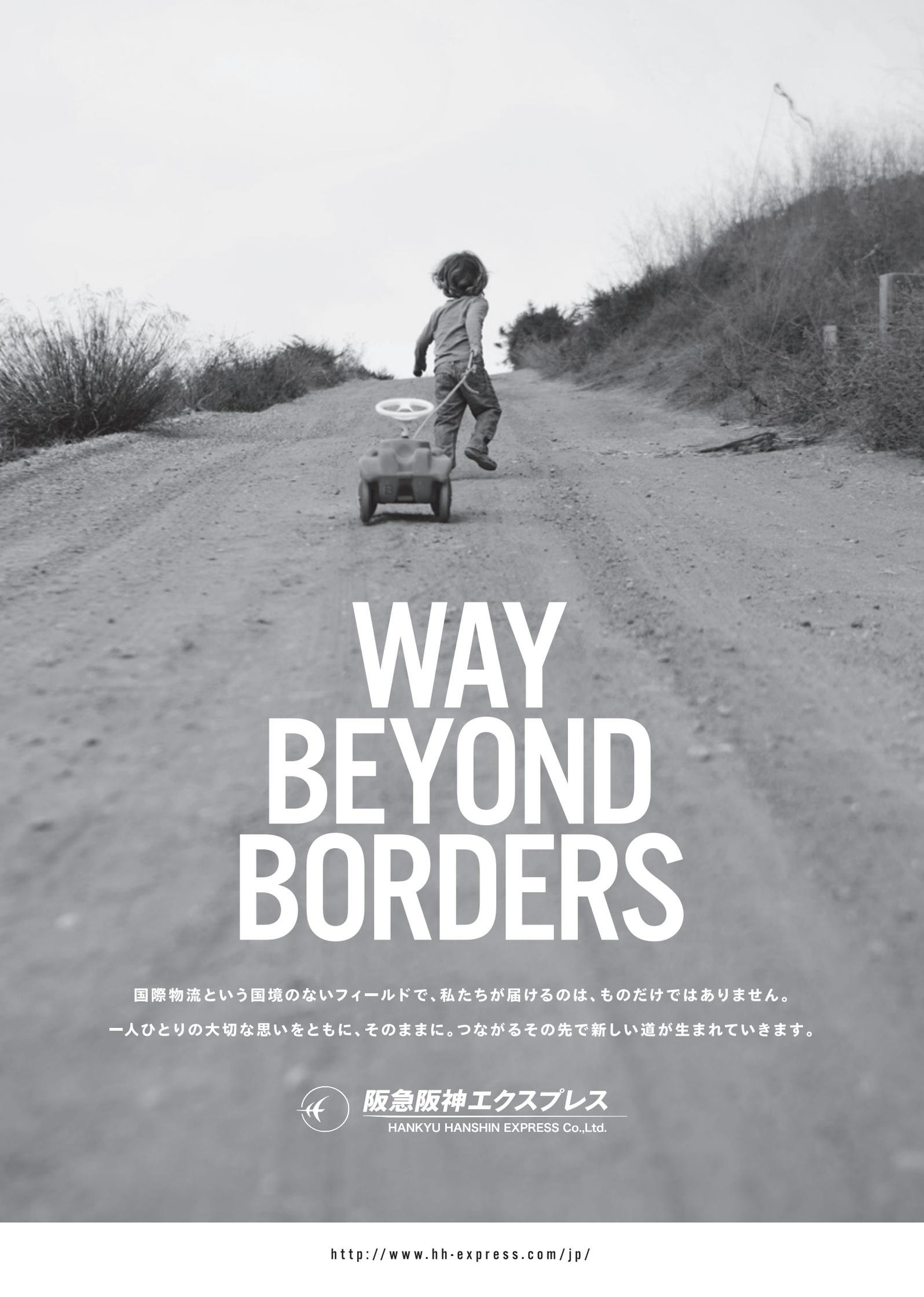
JAPIA会員企業様向け  
最新のTS16949セミナーの情報・案内等は… [www.lapj.co.jp](http://www.lapj.co.jp) まで

ISO教育コンサルティング  
株式会社エルエーピー

**LAP** ISO  
Lead Auditor Project Team



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

A black and white photograph of a child with long hair, seen from behind, pushing a toy car on a dirt path. The path leads towards a horizon with some brush and a flag on a pole in the distance. The overall mood is one of exploration and discovery.

# WAY BEYOND BORDERS

国際物流という国境のないフィールドで、私たちが届けるのは、ものだけではありません。  
一人ひとりの大切な思いをともに、そのままに。つながるその先で新しい道が生まれていきます。



**阪急阪神エクスプレス**

HANKYU HANSHIN EXPRESS Co.,Ltd.



# 世界の道で、 乗る人の「うれしさ」を 学び続ける。

そのクルマは、ヨーロッパの石畳を走るかもしれない。

そのクルマは、灼熱の砂漠を走るかもしれない。

そのクルマは、極寒の凍結路を走るかもしれない。

アイシン精機、特殊試験路。ここには世界のあらゆる道がある。

どんな環境でも満足してもらえる一台のために、このテストコースで  
コンピュータで究めた製品を、さらに、乗る人の気持ちになって鍛えあげていく。

すべては、クルマの部品やシステムの開発段階から、  
乗る人の“うれしさ”を学び、求められているものをカタチにするために。

# AISIN

*One Team, Best Future*

アイシン精機株式会社 〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 [www.aisin.co.jp](http://www.aisin.co.jp)